

0001

社会・家族・生活 > 家族・世帯・ライフスタイル | 難易度：基礎

「世帯」の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．住居と生計を共にする生活単位として統計上把握され、必ずしも親族だけで構成されるとは限らない。
- イ．法律上の婚姻関係にある夫婦とその子だけを指す。
- ウ．血縁関係のある人だけで構成される集団を指す。
- エ．介護保険で同一の要介護度に認定された人の集団を指す。

答え・解説

正答：ア

ア：世帯は家族と一致するとは限らず、非親族を含む場合や単独世帯もある。

イ：世帯は婚姻関係や親子関係だけで定義されない。

ウ：非親族を含む世帯もあり、血縁のみには限定されない。

エ：要介護度は世帯の定義とは関係しない。

総合解説：世帯は家族と一致するとは限らず、非親族を含む場合や単独世帯もある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0002

社会・家族・生活 > 家族・世帯・ライフスタイル | 難易度：標準

家族の機能として、介護福祉士国家試験の出題基準に例示されているものはどれか。

- ア．要介護認定の一次判定を行う機能である。
- イ．教育・養育や保健・福祉、安らぎ・交流などの生活機能である。
- ウ．介護サービス事業者を指定する機能である。
- エ．成年後見人を選任する機能である。

答え・解説

正答：イ

ア：要介護認定の一次判定は介護保険制度上の手続であり、家族の基本機能ではない。

イ：出題基準では家庭生活機能として、生産・労働、教育・養育、保健・福祉、生殖、安らぎ・交流などが例示されている。

ウ：事業者指定は行政の役割であり、家族機能ではない。

エ：成年後見人を選任するのは家庭裁判所である。

総合解説：出題基準では家庭生活機能として、生産・労働、教育・養育、保健・福祉、生殖、安らぎ・交流などが例示されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0003

社会・家族・生活 > 家族・世帯・ライフスタイル | 難易度：標準

利用者の家族を理解する際の姿勢として、最も適切なものはどれか。

- ア．同居している人だけを家族として支援対象にする。
- イ．長男がいる場合は、本人の希望にかかわらず長男を主介護者とみなす。
- ウ．婚姻・血縁・同居の有無だけで決めつけず、本人にとって重要な関係や役割を個別に把握する。
- エ．家族構成が同じなら介護負担も同じと考える。

答え・解説

正答：ウ

ア：別居家族などが重要な支援者であることもあり、同居だけで限定するのは不適切である。

イ：性別や続柄による役割固定は本人・家族の実情を無視する。

ウ：家族観やライフスタイルは多様であり、支援では本人の実際の関係性と生活背景を把握することが重要である。

エ：介護負担は健康、就労、関係性、経済状況などで大きく異なる。

総合解説：家族観やライフスタイルは多様であり、支援では本人の実際の関係性と生活背景を把握することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0004

社会・家族・生活 > 家族・世帯・ライフスタイル | 難易度：基礎

施設入所したAさんは、長年地域の商店を経営し、退職後も町内会活動を続けていた。支援を考える際、ライフコースの視点として最も適切なものはどれか。

- ア．同年代の入所者と同じ活動を一律に勤める。
- イ．退職後の地域活動は介護と無関係なので情報収集しない。
- ウ．入所後のADLだけを評価し、過去の生活歴は扱わない。
- エ．これまでの仕事、家族関係、地域活動など人生の経過を踏まえ、現在の生活上の希望を理解する。

答え・解説

正答：エ

ア：年齢が同じでも生活歴や価値観は異なるため一律支援は適切でない。

イ：地域活動は役割や生きがい、社会関係を理解する重要な情報である。

ウ：生活歴を切り離すと本人らしさや役割の理解が不十分になる。

エ：ライフコースの視点では、人生の各時期の経験や役割の連続性を踏まえて現在の生活を捉える。

総合解説：ライフコースの視点では、人生の各時期の経験や役割の連続性を踏まえて現在の生活を捉える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0005

社会・家族・生活 > 家族・世帯・ライフスタイル | 難易度：標準

ワーク・ライフ・バランスの考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．仕事と生活の双方を調和させ、多様な生き方や役割を両立できる状態を目指す。
- イ．介護離職を前提に家族介護へ専念することを指す。
- ウ．高齢者のみを対象とする余暇活動の制度を指す。
- エ．家庭生活を犠牲にして就労時間を最大化することを指す。

答え・解説

正答：ア

ア：ワーク・ライフ・バランスは、就労と家庭・地域・自己生活などを調和させる考え方である。

イ：就労か介護かの二者択一を前提にする概念ではない。

ウ：対象は高齢者に限定されず、余暇制度そのものでもない。

エ：仕事だけを優先する考え方ではない。

総合解説：ワーク・ライフ・バランスは、就労と家庭・地域・自己生活などを調和させる考え方である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0006

社会・家族・生活 > 家族・世帯・ライフスタイル | 難易度：応用

在宅で夫を介護するBさんが「仕事もあり、最近ほとんど眠れていない」と話した。介護福祉職の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．夫の介護だけに焦点を当て、Bさんの睡眠や就労状況は扱わない。
- イ．Bさんの負担と希望を確認し、本人の支援と合わせて利用できるサービスや相談先を検討する。
- ウ．Bさんに退職を勧めてから支援を考える。
- エ．家族の責任なので、介護サービスの利用を控えるよう勧める。

答え・解説

正答：イ

ア：介護者の負担を無視すると在宅生活の継続が難しくなることがある。

イ：介護者の健康・就労・生活も支援の重要な視点であり、本人と家族双方の状況を把握して支援資源につなぐ。

ウ：退職を前提とせず、本人と家族の希望に沿う支援を検討する。

エ：介護を家族責任だけに帰すことは適切でない。

総合解説：介護者の健康・就労・生活も支援の重要な視点であり、本人と家族双方の状況を把握して支援資源につなぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0007

社会・家族・生活 > 家族・世帯・ライフスタイル | 難易度：標準

「ダブルケア」の例として、最も適切なものはどれか。

- ア．1人の利用者を2人の介護職員で移乗介助している。
- イ．介護保険と医療保険の両方に加入している。
- ウ．子育てと親の介護を同時期に担っている。
- エ．要介護者が2種類の福祉用具を使っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：介助人数を表す用語ではない。

イ：保険加入の重複を指す用語ではない。

ウ：ダブルケアは、典型的には育児と介護など複数のケア責任が同時に重なる状態をいう。

エ：福祉用具の種類数を表す用語ではない。

総合解説：ダブルケアは、典型的には育児と介護など複数のケア責任が同時に重なる状態をいう。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0008

社会・家族・生活 > 家族・世帯・ライフスタイル | 難易度：基礎

「娘だから介護を担うのが当然」という見方について、最も適切な評価はどれか。

- ア．介護職は家族関係に一切関与せず、負担状況も確認しない。
- イ．家族制度上の原則なので、必ず娘が主介護者になる。
- ウ．長男がいる場合だけは、娘は介護に関与してはならない。
- エ．性別や続柄だけで介護役割を固定せず、家族それぞれの状況と意思を確認する必要がある。

答え・解説

正答：エ

ア：家族関係や負担は生活支援に影響するため必要な範囲で把握する。

イ：そのような一律の法的原則はない。

ウ：支援の関わりを続柄で排除する考え方は不適切である。

エ：家族の役割は多様化しており、介護を特定の性別や続柄に当然視することは適切でない。

総合解説：家族の役割は多様化しており、介護を特定の性別や続柄に当然視することは適切でない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0009

社会・家族・生活 > 家族・世帯・ライフスタイル | 難易度：標準

高齢者の一人暮らしが増える社会で、介護・福祉支援に求められる視点として最も適切なものはどれか。

- ア．家族同居を前提とせず、見守り、生活支援、社会参加など地域の支援資源も組み合わせる。
- イ．公的サービスだけを使い、近隣や地域活動との関係は考慮しない。
- ウ．独居であれば全員が施設入所を必要とすると判断する。
- エ．家族が同居していないため本人の自己決定を制限する。

答え・解説

正答：ア

ア：単独世帯では家族同居による支援を前提にできないため、地域資源や公的サービスとの連携が重要になる。

イ：本人が望む場合は地域のつながりも重要な生活資源となる。

ウ：独居と施設入所の必要性は同一ではなく、本人の状態と希望で判断する。

エ：独居を理由に自己決定を制限するのは適切でない。

総合解説：単独世帯では家族同居による支援を前提にできないため、地域資源や公的サービスとの連携が重要になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0010

社会・家族・生活 > 家族・世帯・ライフスタイル | 難易度：応用

共働き世帯や単独世帯の増加などライフスタイルの変化を踏まえた介護支援として、最も適切なものはどれか。

- ア．就労中の家族には介護を優先するよう一律に求める。
- イ．家族構成だけから支援力を推定せず、就労、距離、健康、関係性、利用可能な地域資源を個別に確認する。
- ウ．同居家族が1人でもいれば外部サービスは不要と判断する。
- エ．別居家族は支援計画に含めない。

答え・解説

正答：イ

ア：就労継続を含む生活全体を尊重し、利用可能な支援を検討する必要がある。

イ：現代の家族・世帯は多様で、形式的な家族構成から介護力を決めつけないことが重要である。

ウ：同居の有無だけでは介護力や負担は判断できない。

エ：本人の希望があれば別居家族も重要な支援者になり得る。

総合解説：現代の家族・世帯は多様で、形式的な家族構成から介護力を決めつけないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0011

社会・家族・生活 > 地域社会・社会構造 | 難易度：基礎

介護福祉における「地域」を捉える視点として、最も適切なものはどれか。

- ア．家族以外の人間関係を除外して地域を考える。
- イ．市町村の境界線だけで地域を定義する。
- ウ．行政区域だけでなく、本人の日常生活圏、近隣関係、活動の場などを含めて捉える。
- エ．介護保険事業所の建物内だけを地域とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：近隣住民や地域組織との関係も地域生活の重要な要素である。

イ：行政区域は一要素だが、生活圏と一致しない場合がある。

ウ：生活者の視点では、地域は行政区分だけでなく実際の生活圏や人間関係を含む。

エ：地域は事業所内部に限定されない。

総合解説：生活者の視点では、地域は行政区分だけでなく実際の生活圏や人間関係を含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0012

社会・家族・生活 > 地域社会・社会構造 | 難易度：標準

インフォーマルな社会資源の例として、最も適切なものはどれか。

- ア．市町村が実施する介護保険の地域支援事業である。
- イ．指定訪問介護事業所の訪問介護サービスである。
- ウ．家庭裁判所が選任した成年後見人の法的支援である。
- エ．近隣住民による見守りや、本人が参加する地域の自主活動である。

答え・解説

正答：エ

ア：行政制度に基づく事業はフォーマル資源である。

イ：指定事業者による介護サービスはフォーマル資源である。

ウ：法制度に基づく支援であり、単純なインフォーマル資源とはいえない。

エ：制度に基づく専門サービスではない住民・友人・地域活動などはインフォーマル資源になり得る。

総合解説：制度に基づく専門サービスではない住民・友人・地域活動などはインフォーマル資源になり得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0013

社会・家族・生活 > 地域社会・社会構造 | 難易度：標準

社会的孤立について、最も適切なものはどれか。

- ア．人との接触や社会的なつながりが乏しいという客観的側面を指すことがある。
- イ．一人暮らしであれば必ず社会的孤立である。
- ウ．家族と同居していれば社会的孤立は起こらない。
- エ．孤独感がなければ、社会的つながりの状況を確認する必要はない。

答え・解説

正答：ア

ア：社会的孤立は社会関係の少なさなど客観的側面から捉えられ、孤独という主観的感情とは区別して考える必要がある。

イ：独居でも豊かな社会関係をもつ人はおり、同義ではない。

ウ：同居していても社会的関係が乏しい場合はあり得る。

エ：主観的孤独感がなくても社会関係の乏しさが支援課題になる場合がある。

総合解説：社会的孤立は社会関係の少なさなど客観的側面から捉えられ、孤独という主観的感情とは区別して考える必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0014

社会・家族・生活 > 地域社会・社会構造 | 難易度：基礎

地域で暮らす高齢者の買物支援を検討している。社会資源の把握として最も適切な方法はどれか。

- ア．介護保険給付の対象サービスだけを一覧にする。
- イ．介護サービスだけでなく、商店、配食、移動支援、住民活動など本人が利用可能な資源を幅広く整理する。
- ウ．事業所から遠い資源は本人の生活圏を確認せず除外する。
- エ．本人が希望している地域活動は専門サービスではないため除外する。

答え・解説

正答：イ

ア：買物などの生活課題には保険外・地域資源も関係する。

イ：生活課題への支援では公的制度と地域の多様な資源を合わせて把握することが重要である。

ウ：利用可能性は本人の交通手段や生活圏を確認して判断する。

エ：本人が望む地域活動は生活支援・参加の重要な資源となり得る。

総合解説：生活課題への支援では公的制度と地域の多様な資源を合わせて把握することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0015

社会・家族・生活 > 地域社会・社会構造 | 難易度：標準

福祉サービス事業所の「組織」としての特徴に関する説明で、最も適切なものはどれか。

- ア．構成員が互いに面識のない一時的な人の集まりだけを指す。
- イ．家族関係がある人だけで構成される集団を指す。
- ウ．一定の目的を共有し、役割分担やルールを通じて継続的に活動する集団である。
- エ．目的や役割分担が存在しないことが組織の条件である。

答え・解説

正答：ウ

ア：一時的な集合だけでは組織の継続性や構造を示さない。

イ：組織は血縁関係に限定されない。

ウ：組織は共通目的、役割、一定の規則や構造をもって活動する集団として捉えられる。

エ：共通目的や役割構造は組織を理解する基本要素である。

総合解説：組織は共通目的、役割、一定の規則や構造をもって活動する集団として捉えられる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0016

社会・家族・生活 > 地域社会・社会構造 | 難易度：応用

地域サロンを企画する際、住民参加を促す方法として最も適切なものはどれか。

- ア．参加者全員に同じ役割を義務づける。
- イ．支援が必要な人は運営に関わらないようにする。
- ウ．専門職が内容をすべて決め、住民には参加日だけ知らせる。
- エ．住民の関心や地域の課題を聞き、企画段階から住民が役割を選んで関わられるようにする。

答え・解説

正答：エ

ア：本人の得意なことや希望に応じて役割を選べることが望ましい。

イ：支援の必要性だけを理由に参加機会を制限するのは適切でない。

ウ：住民の主体的参加やニーズ反映が乏しい。

エ：地域福祉では住民を単なるサービス受給者ではなく、地域づくりの主体として捉えることが重要である。

総合解説：地域福祉では住民を単なるサービス受給者ではなく、地域づくりの主体として捉えることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0017

社会・家族・生活 > 地域社会・社会構造 | 難易度：標準

退職後に「自分にはもう役割がない」と話すAさんへの地域支援として、最も適切なものはどれか。

- ア．Aさんの興味や得意分野を確認し、本人が望めば地域活動などで役割をもてる機会を探す。
- イ．本人の希望を聞かず、毎日のボランティア活動を決める。
- ウ．介護サービス利用中は地域活動を中止するよう勧める。
- エ．高齢者は役割を持たず休養することが望ましいと説明する。

答え・解説

正答：ア

ア：社会参加や役割は生活の充実と関係し、本人の希望に沿って参加機会を整えることが重要である。

イ：参加は本人の選択を尊重して支援する必要がある。

ウ：介護サービス利用と地域参加は両立し得る。

エ：年齢だけで社会的役割を否定するのは不適切である。

総合解説：社会参加や役割は生活の充実と関係し、本人の希望に沿って参加機会を整えることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0018

社会・家族・生活 > 地域社会・社会構造 | 難易度：基礎

地域の「互助」と公的サービスの関係について、最も適切なものはどれか。

- ア．公的サービスがあれば地域の支え合いは不要である。
- イ．住民同士の支え合いは重要だが、必要な公的支援を置き換えるものではなく、適切に組み合わせる。
- ウ．互助は本人の同意がなくても近隣住民に介護を義務づける仕組みである。
- エ．近隣の助け合いがあれば介護保険サービスは利用できない。

答え・解説

正答：イ

ア：生活支援や社会参加では地域のつながりが有用な場合がある。

イ：地域支援では互助を活かしつつ、制度的支援が必要な人に責任を転嫁しないことが重要である。

ウ：互助は強制的な介護義務を意味しない。

エ：互助の存在は公的サービス利用を一律に妨げるものではない。

総合解説：地域支援では互助を活かしつつ、制度的支援が必要な人に責任を転嫁しないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0019

社会・家族・生活 > 地域社会・社会構造 | 難易度：標準

交通手段が乏しい地域で、高齢者が受診や買物に困っている。問題の捉え方として最も適切なものはどれか。

ア．家族がいないことだけを原因とし、地域交通は検討しない。

イ．介護職が毎回私用車で送迎すれば地域課題は解決したとみなす。

ウ．本人の能力だけでなく、交通、店舗配置、地域資源など環境・社会構造の要因も含めて検討する。

エ．本人の努力不足だけが原因と判断する。

答え・解説

正答：ウ

ア：地域の移動環境も重要な要因である。

イ：個別対応だけでなく持続可能な地域資源・制度の検討が必要である。

ウ：生活課題は個人要因だけでなく社会環境との関係で生じるため、地域構造を含む把握が必要である。

エ：環境条件を無視して個人責任だけに帰すのは不適切である。

総合解説：生活課題は個人要因だけでなく社会環境との関係で生じるため、地域構造を含む把握が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0020

社会・家族・生活 > 地域社会・社会構造 | 難易度：応用

地域で孤立する高齢者を早期に把握するためのネットワークづくりとして、最も適切なものはどれか。

ア．異変に気づいた住民には専門職でないため関与しないよう求める。

イ．介護事業所内部だけで情報を共有し、地域とは連携しない。

ウ．本人の情報を同意や必要性を考えず地域全体に公開する。

エ．医療・介護機関だけでなく、民生委員、住民活動、商店など多様な関係者と、必要な範囲で情報連携できる関係をつくる。

答え・解説

正答：エ

ア：住民からの気づきが支援につながることもあり、適切な相談先につなげる仕組みが重要である。

イ：地域生活上の変化を捉えるには地域の多様な関係者との連携が有用である。

ウ：連携でも個人情報や本人の権利への配慮が必要である。

エ：地域の見守りでは多様な主体のネットワークが有効であり、個人情報に配慮しながら連携する。

総合解説：地域の見守りでは多様な主体のネットワークが有効であり、個人情報に配慮しながら連携する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0021

社会・家族・生活 > 少子高齢化・人口・統計 | 難易度：基礎

「高齢化率」の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．総人口に占める65歳以上人口の割合である。
- イ．15～64歳人口に占める65歳以上人口の割合である。
- ウ．総人口に占める75歳以上人口の割合だけを指す。
- エ．65歳以上人口に占める要介護認定者の割合である。

答え・解説

正答：ア

ア：高齢化率は、総人口に対する65歳以上人口の割合として用いられる。

イ：分母は生産年齢人口ではなく総人口である。

ウ：75歳以上人口割合は別に示される指標であり、高齢化率の基本定義ではない。

エ：これは要介護認定割合の考え方であり高齢化率ではない。

総合解説：高齢化率は、総人口に対する65歳以上人口の割合として用いられる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0022

社会・家族・生活 > 少子高齢化・人口・統計 | 難易度：標準

人口の高齢化が進む主な要因の組合せとして、最も適切なものはどれか。

- ア．介護施設数が増えることだけである。
- イ．出生数の減少と平均寿命の伸長などが重なり、人口に占める高齢者の割合が高まる。
- ウ．出生数の増加と平均寿命の短縮である。
- エ．要介護認定の基準を厳しくすることだけである。

答え・解説

正答：イ

ア：施設数は高齢化率の直接的な人口学的要因ではない。

イ：高齢化は出生動向と死亡・寿命の変化など人口動態の組合せによって進む。

ウ：一般にこの組合せは高齢者割合の上昇要因とはならない。

エ：認定基準は人口年齢構造そのものを決めない。

総合解説：高齢化は出生動向と死亡・寿命の変化など人口動態の組合せによって進む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0023

社会・家族・生活 > 少子高齢化・人口・統計 | 難易度：標準

合計特殊出生率について、最も適切な説明はどれか。

ア．1世帯当たりの同居人数を指す。

イ．その年に出生した子どもの実人数そのものを指す。

ウ．ある年の年齢別出生率を基に、1人の女性が一生の間に産む子どもの数に相当する指標として示される。

エ．65歳以上人口の増加率を指す。

答え・解説

正答：ウ

ア：世帯人員を示す指標ではない。

イ：出生数と合計特殊出生率は異なる指標である。

ウ：合計特殊出生率は年齢別出生率を合計して算出し、出生動向をみる代表的な指標である。

エ：高齢者人口の増加率を示す指標ではない。

総合解説：合計特殊出生率は年齢別出生率を合計して算出し、出生動向をみる代表的な指標である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0024

社会・家族・生活 > 少子高齢化・人口・統計 | 難易度：基礎

人口ピラミッドを見る目的として、最も適切なものはどれか。

ア．個々人の要介護度を予測する。

イ．介護施設ごとの事故件数を比較する。

ウ．世帯ごとの所得を算定する。

エ．年齢階級・性別の人口構成を視覚的に捉え、世代の厚みや人口構造を把握する。

答え・解説

正答：エ

ア：人口ピラミッドは個人の介護度を判定する資料ではない。

イ：施設事故統計を示す図ではない。

ウ：所得計算に用いる統計図ではない。

エ：人口ピラミッドは年齢・性別の人口分布を示し、少子高齢化など人口構造の特徴を理解するのに用いられる。

総合解説：人口ピラミッドは年齢・性別の人口分布を示し、少子高齢化など人口構造の特徴を理解するのに用いられる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0025

社会・家族・生活 > 少子高齢化・人口・統計 | 難易度：標準

「現在の日本の人口構成」を確認する際の情報源として、最も適切なものはどれか。

- ア．総務省統計局の人口推計や国勢調査など、公的統計の公表資料を確認する。
- イ．出典のないSNS投稿の数値をそのまま用いる。
- ウ．10年以上前の民間ブログを現在値として用いる。
- エ．利用者1人の経験から全国人口を推定する。

答え・解説

正答：ア

ア：人口に関する数値は更新されるため、公的統計の基準日・公表日を確認することが重要である。

イ：出典・基準日を確認できず信頼性を担保できない。

ウ：人口統計は変化するため古い数値を現在値として扱えない。

エ：個別経験から全国統計を推定することはできない。

総合解説：人口に関する数値は更新されるため、公的統計の基準日・公表日を確認することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0026

社会・家族・生活 > 少子高齢化・人口・統計 | 難易度：応用

高齢社会を理解する際に、65歳以上人口を一つの集団としてだけ見ない理由として最も適切なものはどれか。

- ア．65歳以上では全員の健康状態がほぼ同じだからである。
- イ．65～74歳、75歳以上、85歳以上などで健康状態や支援ニーズ、人口動向が異なるためである。
- ウ．75歳以上は社会保障制度の対象外になるからである。
- エ．85歳以上になると人口統計に含まれないからである。

答え・解説

正答：イ

ア：高齢者の健康状態や生活機能には大きな個人差がある。

イ：高齢者内部にも年齢階級による人口動向や生活課題の違いがあり、細分して把握する必要がある。

ウ：75歳以上も各種社会保障制度の対象となる。

エ：85歳以上も人口統計に含まれる。

総合解説：高齢者内部にも年齢階級による人口動向や生活課題の違いがあり、細分して把握する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0027

社会・家族・生活 > 少子高齢化・人口・統計 | 難易度：標準

人口減少が進む地域の介護提供体制を考える際の視点として、最も適切なものはどれか。

ア．全国の高齢化率だけを見れば各地域の必要サービス量が決まる。

イ．人口が減れば介護ニーズも必ず同じ割合で減る。

ウ．高齢者数だけでなく、生産年齢人口、担い手、移動距離、既存資源など地域差を踏まえて体制を検討する。

エ．介護人材の確保は人口構造と無関係である。

答え・解説

正答：ウ

ア：同じ全国値でも地域の人口構造や資源は異なる。

イ：高齢者割合や年齢構成により介護需要の推移は異なる。

ウ：人口減少下では需要と担い手の両面が地域によって異なるため、地域分析に基づく計画が必要である。

エ：生産年齢人口の減少は担い手確保にも影響し得る。

総合解説：人口減少下では需要と担い手の両面が地域によって異なるため、地域分析に基づく計画が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0028

社会・家族・生活 > 少子高齢化・人口・統計 | 難易度：基礎

ある地域で高齢化率は上昇したが、65歳以上人口の実数は減少していた。この説明としてあり得るものはどれか。

ア．高齢化率と人口実数は常に同じ値になる。

イ．高齢化率は要介護認定者数だけで決まる。

ウ．割合が上昇すれば、65歳以上人口の実数も必ず増える。

エ．総人口が65歳以上人口より速い割合で減少したため、高齢者の割合は上昇した。

答え・解説

正答：エ

ア：割合と実数は単位も意味も異なる。

イ：高齢化率は65歳以上人口と総人口から算出する。

ウ：分母の総人口が減れば、実数が減っていても割合が上昇することがある。

エ：割合は分子だけでなく分母の変化にも左右されるため、実数と割合を分けて読む必要がある。

総合解説：割合は分子だけでなく分母の変化にも左右されるため、実数と割合を分けて読む必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0029

社会・家族・生活 > 少子高齢化・人口・統計 | 難易度：標準

高齢者の一人暮らしに関する統計を介護支援に活用する際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．全国的な傾向を参考にしつつ、個々の利用者については実際の支援関係や生活状況を別途把握する。
- イ．全国統計と異なる生活をしている人は例外として支援対象外にする。
- ウ．統計があれば本人への聞き取りは不要である。
- エ．一人暮らしの高齢者は全員、社会的孤立しているとみなす。

答え・解説

正答：ア

ア：統計は傾向を示すが、個人の生活を直接決めるものではないため個別アセスメントが必要である。

イ：統計は支援対象を排除する基準ではない。

ウ：個別支援には本人の状況や希望の把握が不可欠である。

エ：独居と孤立は同義ではない。

総合解説：統計は傾向を示すが、個人の生活を直接決めるものではないため個別アセスメントが必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0030

社会・家族・生活 > 少子高齢化・人口・統計 | 難易度：応用

人口や高齢化率を教材に用いるとき、最も重要な確認事項はどれか。

- ア．公表年だけ見て、データの基準日は確認しない。
- イ．数値の基準日、対象範囲、定義、出典を確認し、異なる時点の値を混同しない。
- ウ．割合の単位は確認せず整数だけ比較する。
- エ．数値が大きい資料を優先する。

答え・解説

正答：イ

ア：公表年とデータ基準日は異なる場合がある。

イ：人口統計は時点によって変化するため、定義と基準日を揃えて比較する必要がある。

ウ：％、人、千人など単位を確認しない比較は誤りにつながる。

エ：数値の大小ではなく出典・定義・時点の整合性が重要である。

総合解説：人口統計は時点によって変化するため、定義と基準日を揃えて比較する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0031

社会保障・介護保険 > 社会保障の体系 | 難易度：基礎

厚生労働省が示す社会保障制度の基本的な構成として、最も適切なものはどれか。

- ア．医療保険と年金保険の2つだけである。
- イ．国税、地方税、消費税、所得税の4つである。
- ウ．社会保険、社会福祉、公的扶助、保健医療・公衆衛生である。
- エ．介護保険、成年後見、自治会、民間保険だけである。

答え・解説

正答：ウ

ア：社会保障には社会福祉、公的扶助、保健医療・公衆衛生なども含まれる。

イ：税の種類を分類したものではない。

ウ：厚生労働省は社会保障制度をこの4つの領域からなるものとして説明している。

エ：これらは社会保障の基本4区分ではない。

総合解説：厚生労働省は社会保障制度をこの4つの領域からなるものとして説明している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0032

社会保障・介護保険 > 社会保障の体系 | 難易度：標準

社会保険に含まれるものとして、最も適切なものはどれか。

- ア．感染症対策と予防接種だけである。
- イ．生活保護だけである。
- ウ．児童福祉と障害者福祉だけである。
- エ．医療保険、年金保険、介護保険、雇用保険、労災保険などである。

答え・解説

正答：エ

ア：これらは保健医療・公衆衛生に位置づけられる。

イ：生活保護は公的扶助に位置づけられる。

ウ：これらは主に社会福祉に位置づけられる。

エ：社会保険は生活上のリスクに備え、保険料などを基盤として給付を行う仕組みである。

総合解説：社会保険は生活上のリスクに備え、保険料などを基盤として給付を行う仕組みである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0033

社会保障・介護保険 > 社会保障の体系 | 難易度：標準

公的扶助の代表的な制度はどれか。

- ア．生活保護制度である。
- イ．予防接種制度だけである。
- ウ．介護保険制度である。
- エ．国民年金制度である。

答え・解説

正答：ア

ア：生活保護は、生活に困窮する人に最低限度の生活を保障し、自立を助長する公的扶助である。

イ：予防接種は保健医療・公衆衛生分野に位置づけられる。

ウ：介護保険は社会保険である。

エ：国民年金は社会保険である。

総合解説：生活保護は、生活に困窮する人に最低限度の生活を保障し、自立を助長する公的扶助である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0034

社会保障・介護保険 > 社会保障の体系 | 難易度：基礎

社会福祉について、最も適切な説明はどれか。

- ア．所得税を徴収する制度である。
- イ．障害者福祉、児童福祉、高齢者福祉など、生活上の支援を必要とする人に公的な支援を行う分野である。
- ウ．保険料を納めた人だけを対象とする制度の総称である。
- エ．感染症の流行状況だけを監視する制度である。

答え・解説

正答：イ

ア：税徴収制度を指すものではない。

イ：社会福祉は社会生活上の支援ニーズに対応する制度・サービスを含む。

ウ：社会福祉は社会保険と同義ではなく、保険料納付だけを要件としない。

エ：これは公衆衛生の一部に近く、社会福祉全体の説明ではない。

総合解説：社会福祉は社会生活上の支援ニーズに対応する制度・サービスを含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0035

社会保障・介護保険 > 社会保障の体系 | 難易度：標準

保健医療・公衆衛生に含まれる取組として、最も適切なものはどれか。

- ア．生活保護の保護費支給だけである。
- イ．成年後見人の選任である。
- ウ．感染症予防や予防接種など、国民の健康を守るための取組である。
- エ．介護認定審査会による要介護認定である。

答え・解説

正答：ウ

ア：生活保護は公的扶助である。

イ：成年後見は民法上の権利擁護制度である。

ウ：保健医療・公衆衛生は疾病予防や健康保持、衛生などを扱う。

エ：介護保険制度の認定手続である。

総合解説：保健医療・公衆衛生は疾病予防や健康保持、衛生などを扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0036

社会保障・介護保険 > 社会保障の体系 | 難易度：応用

自助・共助・公助の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．公的支援を利用する人は自助を放棄しているとみなす。
- イ．共助とは家族だけが無償で介護することを意味する。
- ウ．自助ができない人には社会保障を提供しない。
- エ．自助を基本としつつ、社会保険などの共助や、必要時の公助を適切に組み合わせて生活を支える。

答え・解説

正答：エ

ア：公的支援の利用を否定的に捉える考え方は適切でない。

イ：共助には社会保険など社会連帯による仕組みが含まれる。

ウ：社会保障は生活上のリスクや困窮に対応するセーフティネットである。

エ：社会保障は自助だけに依存せず、共助・公助を組み合わせる仕組みとして捉えられる。

総合解説：社会保障は自助だけに依存せず、共助・公助を組み合わせる仕組みとして捉えられる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0037

社会保障・介護保険 > 社会保障の体系 | 難易度：標準

社会保障の「所得再分配機能」の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．税や保険料と給付を通じて、個人や世帯間で所得を移転し生活の安定を図る機能である。
- イ．景気変動を完全になくす機能である。
- ウ．全ての人の所得を同額にする機能である。
- エ．福祉サービスを民間だけに任せる機能である。

答え・解説

正答：ア

ア：所得再分配は、負担と給付を通じて所得格差や生活上のリスクを調整する社会保障の機能である。

イ：社会保障には経済安定機能もあるが、景気を完全になくすものではない。

ウ：所得を完全に同額化することを意味しない。

エ：民間化を意味する機能ではない。

総合解説：所得再分配は、負担と給付を通じて所得格差や生活上のリスクを調整する社会保障の機能である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0038

社会保障・介護保険 > 社会保障の体系 | 難易度：基礎

病気で働けなくなった人が医療や所得保障を受け、生活の急激な悪化を防ぐ例は、社会保障のどの機能と最も関係するか。

- ア．住民票を管理する機能である。
- イ．生活のリスクに対応し、生活の安定を支える機能である。
- ウ．市場価格を一律に統制する機能である。
- エ．家族構成を同一化する機能である。

答え・解説

正答：イ

ア：住民登録の行政機能とは異なる。

イ：傷病、老齢、失業、要介護などのリスクに対応して生活を支えることは社会保障の基本機能である。

ウ：価格統制を目的とする制度ではない。

エ：家族構成を統一するものではない。

総合解説：傷病、老齢、失業、要介護などのリスクに対応して生活を支えることは社会保障の基本機能である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0039

社会保障・介護保険 > 社会保障の体系 | 難易度：標準

不況時にも年金や失業等給付などが一定の所得を支え、消費の急激な落ち込みを緩和する働きは、社会保障のどの機能と関係するか。

- ア．成年後見制度の代理機能である。
- イ．介護保険の要介護認定機能である。
- ウ．経済変動が国民生活に与える影響を緩和する経済安定機能である。
- エ．地域福祉計画の住民参加機能だけである。

答え・解説

正答：ウ

ア：成年後見の代理権とは別の概念である。

イ：認定機能とは異なる。

ウ：社会保障給付は生活を支えると同時に、景気変動の影響を緩和する経済安定機能を持つと整理される。

エ：地域福祉計画の住民参加とは異なる社会保障全体の機能である。

総合解説：社会保障給付は生活を支えると同時に、景気変動の影響を緩和する経済安定機能を持つと整理される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0040

社会保障・介護保険 > 社会保障の体系 | 難易度：応用

介護福祉職が社会保障制度を学ぶ意義として、最も適切なものはどれか。

- ア．社会保障を使わず家族だけで解決するためである。
- イ．利用者の収入を介護職が管理する権限を得るためである。
- ウ．介護職がすべての給付決定を単独で行うためである。
- エ．利用者の生活課題に応じて、介護だけでなく医療、所得、障害、生活困窮など関連制度につなぐためである。

答え・解説

正答：エ

ア：必要な制度利用につなぐことも専門職の重要な役割である。

イ：制度理解によって包括的な財産管理権限が生じるわけではない。

ウ：給付決定は制度ごとの行政機関等が担い、介護職が単独決定するものではない。

エ：生活課題は複合的であり、社会保障全体を理解することで必要な制度・機関への連携が可能になる。

総合解説：生活課題は複合的であり、社会保障全体を理解することで必要な制度・機関への連携が可能になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0041

社会保障・介護保険 > 介護保険制度 | 難易度：基礎

介護保険の保険者として、最も適切なものはどれか。

- ア．市町村及び特別区である。
- イ．厚生労働省だけである。
- ウ．指定介護サービス事業者である。
- エ．都道府県だけである。

答え・解説

正答：ア

ア：介護保険法では、市町村及び特別区が介護保険を行う保険者とされている。
イ：国は制度設計等を担うが個々の介護保険の保険者ではない。
ウ：事業者はサービス提供主体であり保険者ではない。
エ：都道府県は制度運営を支援するが、介護保険の保険者そのものは市町村・特別区である。
総合解説：介護保険法では、市町村及び特別区が介護保険を行う保険者とされている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0042

社会保障・介護保険 > 介護保険制度 | 難易度：標準

介護保険の第1号被保険者は、原則としてどのような人か。

- ア．20歳以上の会社員だけである。
- イ．市町村の区域内に住所を有する65歳以上の人である。
- ウ．75歳以上で要介護認定を受けた人だけである。
- エ．40歳以上65歳未満のすべての人である。

答え・解説

正答：イ

ア：年齢・就業形態の条件が異なる。
イ：介護保険法第9条は65歳以上の住民を第1号被保険者としている。
ウ：第1号被保険者は認定の有無にかかわらず65歳以上が基本である。
エ：40～64歳は医療保険加入者が第2号被保険者となる。
総合解説：介護保険法第9条は65歳以上の住民を第1号被保険者としている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0043

社会保障・介護保険 > 介護保険制度 | 難易度：標準

介護保険で「第2号被保険者」に該当する人として、正しいものはどれか。

- ア．65歳以上の全住民である。
- イ．年齢に関係なく要介護認定を受けた人である。
- ウ．市町村の区域内に住所を有する40歳以上65歳未満の医療保険加入者である。
- エ．40歳未満の医療保険加入者である。

答え・解説

正答：ウ

ア：65歳以上は第1号被保険者である。
イ：被保険者区分は年齢と医療保険加入等で定まる。
ウ：第2号被保険者は40～64歳の医療保険加入者である。
エ：40歳未満は第2号被保険者ではない。
総合解説：第2号被保険者は40～64歳の医療保険加入者である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0044

社会保障・介護保険 > 介護保険制度 | 難易度：基礎

52歳の第2号被保険者が介護保険の給付を受ける場合について、最も適切なものはどれか。

- ア．医師の診断だけで要介護認定なしに給付が開始される。
- イ．原因にかかわらず要介護状態なら必ず介護保険給付の対象になる。
- ウ．65歳になるまで介護保険の給付は一切受けられない。
- エ．要介護・要支援状態が、加齢に伴う特定疾病を原因として生じた場合が対象となる。

答え・解説

正答：エ

ア：介護サービス給付には原則として要介護・要支援認定等の手続が必要である。
イ：原因を問わないのは第1号被保険者の場合であり、第2号は特定疾病要件がある。
ウ：第2号被保険者でも特定疾病による要介護等なら対象となる。
エ：第2号被保険者は、要介護等の原因が政令で定める特定疾病である場合に介護保険給付の対象となる。
総合解説：第2号被保険者は、要介護等の原因が政令で定める特定疾病である場合に介護保険給付の対象となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0045

社会保障・介護保険 > 介護保険制度 | 難易度：標準

要介護認定の申請先として、最も適切なものはどれか。

- ア．原則として本人の住所地の市町村（保険者）である。
- イ．利用予定の介護施設が最終認定を行う。
- ウ．家庭裁判所である。
- エ．年金事務所である。

答え・解説

正答：ア

ア：介護保険の保険者である市町村に要介護・要支援認定を申請する。

イ：事業者は認定を決定する主体ではない。

ウ：家庭裁判所は成年後見などを扱い、要介護認定の申請先ではない。

エ：年金事務所は介護認定の申請窓口ではない。

総合解説：介護保険の保険者である市町村に要介護・要支援認定を申請する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0046

社会保障・介護保険 > 介護保険制度 | 難易度：応用

要介護認定の一次判定について、最も適切なものはどれか。

- ア．本人の希望する要介護度をそのまま採用する。
- イ．認定調査の結果や主治医意見書に関する情報を基に、コンピュータによる判定が行われる。
- ウ．介護職員1人の印象だけで決定する。
- エ．家庭裁判所の裁判官が決定する。

答え・解説

正答：イ

ア：本人の希望だけで要介護度は決まらない。

イ：一次判定は認定調査等の情報を用いた全国共通の仕組みによるコンピュータ判定である。

ウ：客観性を確保するため認定調査等の情報を用いる。

エ：介護保険の認定手続であり家庭裁判所の手続ではない。

総合解説：一次判定は認定調査等の情報を用いた全国共通の仕組みによるコンピュータ判定である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0047

社会保障・介護保険 > 介護保険制度 | 難易度：標準

介護認定審査会の役割として、最も適切なものはどれか。

- ア．介護保険料の全国一律額を決める。
- イ．介護サービス事業者を利用者に代わって契約する。
- ウ．一次判定結果や主治医意見書などを基に、要介護状態区分等について審査判定する。
- エ．成年後見人を選任する。

答え・解説

正答：ウ

ア：第1号保険料等は保険者ごとに事業計画等を踏まえて設定される。
イ：サービス契約を代行する機関ではない。
ウ：介護認定審査会は保健・医療・福祉の学識経験者等で構成され、二次判定を行う。
エ：成年後見人の選任は家庭裁判所が行う。
総合解説：介護認定審査会は保健・医療・福祉の学識経験者等で構成され、二次判定を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0048

社会保障・介護保険 > 介護保険制度 | 難易度：基礎

要介護認定を受けたAさんが在宅生活を続けたいと希望している。介護支援専門員の役割として最も適切なものはどれか。

- ア．要介護度を単独で決定する。
- イ．すべての介護サービスを自ら直接提供する。
- ウ．本人の希望より事業所の空き状況だけで計画を決める。
- エ．Aさんの意向や課題を把握し、必要なサービス等を調整して居宅サービス計画を作成・継続的に見直す。

答え・解説

正答：エ

ア：要介護度は市町村の認定手続により決定される。
イ：ケアマネジメントとサービス提供は役割が異なる。
ウ：計画は本人の意向や課題を踏まえて作成する。
エ：介護支援専門員は本人主体のケアマネジメントを行い、サービス利用を調整する。
総合解説：介護支援専門員は本人主体のケアマネジメントを行い、サービス利用を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0049

社会保障・介護保険 > 介護保険制度 | 難易度：標準

介護保険サービスの大きな類型として、最も適切な組合せはどれか。

- ア．居宅サービス、地域密着型サービス、施設サービスなどである。
- イ．教育サービス、司法サービス、税務サービスだけである。
- ウ．医療保険サービスだけで構成される。
- エ．成年後見と生活保護だけである。

答え・解説

正答：ア

ア：介護保険では在宅、地域密着、施設等のサービス体系が設けられている。

イ：介護保険のサービス類型ではない。

ウ：介護保険は医療保険とは別制度で独自の介護サービス体系を持つ。

エ：これらは介護保険サービスの類型ではない。

総合解説：介護保険では在宅、地域密着、施設等のサービス体系が設けられている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0050

社会保障・介護保険 > 介護保険制度 | 難易度：応用

介護保険の地域支援事業について、最も適切な説明はどれか。

- ア．要介護認定を受けた人だけが対象の施設入所制度である。
- イ．要介護状態等になることの予防や、地域で自立した日常生活を支えるための事業を含む。
- ウ．医療保険料を徴収するためだけの事業である。
- エ．家庭裁判所が実施する権利擁護事業だけである。

答え・解説

正答：イ

ア：地域支援事業は施設入所だけの制度ではなく、介護予防や地域支援を含む。

イ：地域支援事業には介護予防・日常生活支援総合事業や包括的支援事業などが含まれる。

ウ：保険料徴収だけを目的とする事業ではない。

エ：市町村の介護保険制度に位置づく事業であり家庭裁判所の事業ではない。

総合解説：地域支援事業には介護予防・日常生活支援総合事業や包括的支援事業などが含まれる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0051

社会保障・介護保険 > 介護保険制度 | 難易度：基礎

高齢者本人と家族が、介護・健康・権利擁護など複数の相談先が分からず困っている。地域の総合相談先として最も適切な機関はどれか。

- ア．税務署である。
- イ．家庭裁判所だけである。
- ウ．地域包括支援センターである。
- エ．ハローワークだけである。

答え・解説

正答：ウ

ア：税務署は高齢者の介護・福祉の総合相談機関ではない。

イ：成年後見等の司法手続は扱うが、介護・健康等の総合相談機関ではない。

ウ：地域包括支援センターは高齢者の総合相談、権利擁護、介護予防支援等を担う地域の中核機関である。

エ：雇用相談機関であり、高齢者の介護・福祉総合相談の中核ではない。

総合解説：地域包括支援センターは高齢者の総合相談、権利擁護、介護予防支援等を担う地域の中核機関である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0052

社会保障・介護保険 > 介護保険制度 | 難易度：標準

第1号被保険者と第2号被保険者の保険料負担について、最も適切なものはどれか。

- ア．第1号被保険者は保険料を負担しない。
- イ．第2号被保険者は介護サービス利用時だけ保険料を支払う。
- ウ．第1号も第2号も介護施設が直接徴収する。
- エ．第1号は市町村が徴収し、第2号は加入している医療保険の保険料とあわせて負担する仕組みである。

答え・解説

正答：エ

ア：第1号被保険者も介護保険料を負担する。

イ：第2号保険料は医療保険料とあわせて継続的に負担する仕組みである。

ウ：介護施設が保険料の徴収主体ではない。

エ：介護保険料の徴収方法は被保険者区分で異なる。

総合解説：介護保険料の徴収方法は被保険者区分で異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0053

社会保障・介護保険 > 介護保険制度 | 難易度：標準

介護保険サービス利用時の利用者負担について、最も適切なものはどれか。

- ア．保険給付の対象となるサービス費の一部を、所得等に応じた負担割合で利用者が負担する。
- イ．要介護度にかかわらず利用料は常に0円である。
- ウ．利用者負担割合は介護職員がその場で自由に決める。
- エ．すべての利用者が必ず全額自己負担する。

答え・解説

正答：ア

ア：介護保険は保険給付と利用者負担を組み合わせる制度であり、負担割合は所得等に応じて定められる。

イ：原則として一定の利用者負担がある。

ウ：負担割合は制度上の基準で定められ、介護職員が任意に決めるものではない。

エ：保険給付の対象サービスは全額自己負担ではない。

総合解説：介護保険は保険給付と利用者負担を組み合わせる制度であり、負担割合は所得等に応じて定められる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0054

社会保障・介護保険 > 介護保険制度 | 難易度：基礎

市町村介護保険事業計画について、最も適切なものはどれか。

- ア．国だけが全国一律の計画を作り、市町村は策定しない。
- イ．地域の介護サービス量等を見込み、原則3年を1期として策定される。
- ウ．成年後見制度の利用件数だけを定める計画である。
- エ．毎月1回策定する。

答え・解説

正答：イ

ア：市町村も介護保険事業計画を策定する。

イ：介護保険事業計画は3年を1期として、サービス見込量や保険料等の基礎となる計画である。

ウ：介護サービス量や地域支援等、介護保険制度運営に関わる事項を扱う。

エ：3年を1期とする計画であり毎月策定ではない。

総合解説：介護保険事業計画は3年を1期として、サービス見込量や保険料等の基礎となる計画である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0055

社会保障・介護保険 > 高齢者保健福祉制度 | 難易度：標準

老人福祉法の目的として、最も適切なものはどれか。

ア．医療保険の診療報酬だけを定めることである。

イ．成年後見人の選任だけを定めることである。

ウ．老人の福祉に関する原理を明らかにし、心身の健康保持と生活の安定に必要な措置を講じて福祉を図ることである。

エ．介護福祉士国家試験の実施だけを定めることである。

答え・解説

正答：ウ

ア：老人福祉法の目的ではない。

イ：成年後見は民法等に基づく制度である。

ウ：老人福祉法第1条は、老人の福祉を図ることを目的としている。

エ：介護福祉士国家試験は社会福祉士及び介護福祉士法等に基づく。

総合解説：老人福祉法第1条は、老人の福祉を図ることを目的としている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0056

社会保障・介護保険 > 高齢者保健福祉制度 | 難易度：応用

高齢者福祉と介護保険の関係について、最も適切なものはどれか。

ア．高齢者支援に自治体は関与しない。

イ．介護保険法施行後、老人福祉法は廃止された。

ウ．老人福祉法は40歳未満の人だけを対象とする。

エ．介護保険制度だけですべての高齢者福祉が完結するわけではなく、老人福祉法等による施策も存在する。

答え・解説

正答：エ

ア：市町村・都道府県は高齢者福祉や介護保険で重要な役割を担う。

イ：老人福祉法は現在も存在する。

ウ：老人の福祉を目的とする法律である。

エ：高齢者支援は介護保険法と老人福祉法など複数制度が関係する。

総合解説：高齢者支援は介護保険法と老人福祉法など複数制度が関係する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0057

社会保障・介護保険 > 高齢者保健福祉制度 | 難易度：標準

高齢者福祉における「措置」の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．法令上の要件に基づき、行政が必要性を判断して福祉サービス等の実施を決定する仕組みである。
- イ．成年後見人がすべての介護サービスを決定する仕組みである。
- ウ．本人と事業者が自由に料金交渉するだけの仕組みである。
- エ．要介護認定のコンピューター次判定そのものを指す。

答え・解説

正答：ア

ア：措置は利用者と事業者の通常の契約だけで成立する仕組みとは異なり、行政の決定を伴う。

イ：成年後見人が行政措置を決定するものではない。

ウ：措置は行政の決定を含む制度である。

エ：要介護認定手続と措置制度は異なる。

総合解説：措置は利用者と事業者の通常の契約だけで成立する仕組みとは異なり、行政の決定を伴う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0058

社会保障・介護保険 > 高齢者保健福祉制度 | 難易度：基礎

老人福祉法に基づく計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．事業所の勤務シフトだけである。
- イ．市町村老人福祉計画や都道府県老人福祉計画である。
- ウ．学校教育計画だけである。
- エ．家庭裁判所成年後見計画だけである。

答え・解説

正答：イ

ア：行政計画と事業所シフトは異なる。

イ：老人福祉法には老人福祉計画に関する規定がある。

ウ：老人福祉法上の計画ではない。

エ：そのような老人福祉法上の計画ではない。

総合解説：老人福祉法には老人福祉計画に関する規定がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0059

社会保障・介護保険 > 高齢者保健福祉制度 | 難易度：標準

独居高齢者Aさんは要介護認定の対象ではないが、閉じこもりと食生活の乱れが心配されている。支援として最も適切な考え方はどれか。

ア．食生活の課題は医療だけの問題なので介護・福祉職は関与しない。

イ．要介護認定がないため一切の公的・地域支援は利用できない。

ウ．介護保険給付の有無だけで支援を終えず、介護予防、地域活動、生活支援など利用可能な施策を検討する。

エ．本人の希望を確認せず直ちに施設入所させる。

答え・解説

正答：ウ

ア：生活支援の観点から多職種・地域資源と連携することができる。

イ：認定がなくても利用できる介護予防・地域支援等がある。

ウ：高齢者支援は介護保険給付に限らず、地域支援事業や高齢者福祉、地域資源を組み合わせる。

エ：本人の意思を尊重し、必要性に応じた支援を検討する。

総合解説：高齢者支援は介護保険給付に限らず、地域支援事業や高齢者福祉、地域資源を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0060

社会保障・介護保険 > 高齢者保健福祉制度 | 難易度：応用

高齢者保健福祉施策を考える基本姿勢として、最も適切なものはどれか。

ア．高齢者は年齢だけを理由に一律に施設生活へ移行する。

イ．保健と福祉は別分野なので連携しない。

ウ．家族がいる場合は公的支援を原則禁止する。

エ．本人の尊厳と自立生活を支え、必要に応じて医療・介護・生活支援・住まいなどを地域で組み合わせる。

答え・解説

正答：エ

ア：年齢だけで生活の場を決めるのは適切でない。

イ：健康と生活支援は相互に関係し連携が重要である。

ウ：家族の有無だけで公的支援を一律に排除する制度ではない。

エ：高齢者施策は生活全体を支える観点が重要で、地域包括ケアの方向とも整合する。

総合解説：高齢者施策は生活全体を支える観点が重要で、地域包括ケアの方向とも整合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0061

障害福祉・権利擁護・地域 > 障害者総合支援制度 | 難易度：基礎

障害者総合支援法の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．障害の有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重しながら共生する社会の実現を目指す。
- イ．障害者は原則として地域社会から分離して生活する。
- ウ．障害福祉サービスは就労者には利用できない。
- エ．支援内容は本人の意思に関係なく行政が決める。

答え・解説

正答：ア

ア：同法は共生社会の実現と、障害者等が自立した日常生活・社会生活を営めるよう総合的に支援することを基本とする。

イ：地域社会での共生に反する考え方である。

ウ：サービス利用の可否は制度上の要件で判断され、就労の有無だけで一律排除されない。

エ：本人の意思や選択を尊重することが重要である。

総合解説：同法は共生社会の実現と、障害者等が自立した日常生活・社会生活を営めるよう総合的に支援することを基本とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0062

障害福祉・権利擁護・地域 > 障害者総合支援制度 | 難易度：標準

障害者総合支援法の「自立支援給付」に含まれるものとして、最も適切なものはどれか。

- ア．介護保険の第1号保険料だけである。
- イ．介護給付、訓練等給付、相談支援に関する給付、自立支援医療、補装具費などである。
- ウ．生活保護費だけである。
- エ．成年後見人の報酬だけである。

答え・解説

正答：イ

ア：介護保険料は自立支援給付ではない。

イ：同法第6条は自立支援給付として複数の給付を定めている。

ウ：生活保護は別法の公的扶助制度である。

エ：成年後見人報酬は自立支援給付の項目ではない。

総合解説：同法第6条は自立支援給付として複数の給付を定めている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0063

障害福祉・権利擁護・地域 > 障害者総合支援制度 | 難易度：標準

障害福祉サービスの分類について、最も適切なものはどれか。

ア．すべての障害福祉サービスは介護保険の施設サービスに分類される。

イ．訓練等給付は医療保険の診療行為だけを指す。

ウ．生活上の介護を支える介護給付と、自立・就労等に向けた訓練を支える訓練等給付などに分かれる。

エ．介護給付と訓練等給付は名称だけ異なり内容は同一である。

答え・解説

正答：ウ

ア：障害福祉制度には独自のサービス体系がある。

イ：就労移行支援等を含む障害福祉サービスの給付である。

ウ：障害福祉サービスには介護給付と訓練等給付等の体系がある。

エ：目的や対象サービスが異なる。

総合解説：障害福祉サービスには介護給付と訓練等給付等の体系がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0064

障害福祉・権利擁護・地域 > 障害者総合支援制度 | 難易度：基礎

障害支援区分について、最も適切な説明はどれか。

ア．所得税額だけを示す区分である。

イ．成年後見制度の後見・保佐・補助を示す区分である。

ウ．介護保険の要介護1～5と完全に同一の制度である。

エ．障害福祉サービスのうち介護給付等の必要度を判断する際に用いられる区分である。

答え・解説

正答：エ

ア：所得区分ではない。

イ：成年後見制度の類型とは別である。

ウ：介護保険の要介護認定とは別制度である。

エ：障害支援区分は障害者等の障害の多様な特性その他心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合いを示す。

総合解説：障害支援区分は障害者等の障害の多様な特性その他心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合いを示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0065

障害福祉・権利擁護・地域 > 障害者総合支援制度 | 難易度：標準

複数の障害福祉サービス利用を希望するAさんについて、サービス等利用計画の作成や継続的な見直しを支援する仕組みはどれか。

- ア．計画相談支援である。
- イ．家庭裁判所の任意後見監督である。
- ウ．税務署の納税相談である。
- エ．介護認定審査会である。

答え・解説

正答：ア

ア：計画相談支援はサービス等利用計画の作成やモニタリング等を通じてサービス利用を支援する。

イ：障害福祉サービス利用計画の作成制度ではない。

ウ：障害福祉サービスの計画相談とは関係しない。

エ：介護保険の要介護認定に関する機関である。

総合解説：計画相談支援はサービス等利用計画の作成やモニタリング等を通じてサービス利用を支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0066

障害福祉・権利擁護・地域 > 障害者総合支援制度 | 難易度：応用

障害者の地域生活への移行と継続を支える「地域相談支援」に関する説明で、最も適切なものはどれか。

- ア．就学前児童だけを対象とする教育制度である。
- イ．施設や病院から地域生活へ移るための支援や、地域で安定して暮らすための相談支援を含む。
- ウ．要介護認定の一次判定を代行する制度である。
- エ．施設から地域へ移ることを禁止する支援である。

答え・解説

正答：イ

ア：障害福祉の地域相談支援の説明ではない。

イ：地域相談支援には地域移行支援と地域定着支援がある。

ウ：介護保険の認定手続とは異なる。

エ：地域生活への移行・定着を支援する制度である。

総合解説：地域相談支援には地域移行支援と地域定着支援がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0067

障害福祉・権利擁護・地域 > 障害者総合支援制度 | 難易度：標準

自立支援医療について、最も適切なものはどれか。

- ア．成年後見人の選任費用だけを負担する制度である。
- イ．住宅改修だけを行う制度である。
- ウ．障害の軽減や機能回復等に必要な一定の医療について、公費負担を行う仕組みである。
- エ．すべての介護サービスを無料にする制度である。

答え・解説

正答：ウ

ア：成年後見制度の費用制度ではない。
イ：医療に関する給付であり住宅改修制度ではない。
ウ：自立支援医療は障害者総合支援法に位置づけられる自立支援給付の一つである。
エ：介護サービス一般を無料化する制度ではない。
総合解説：自立支援医療は障害者総合支援法に位置づけられる自立支援給付の一つである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0068

障害福祉・権利擁護・地域 > 障害者総合支援制度 | 難易度：基礎

補装具費について、最も適切な説明はどれか。

- ア．年金保険料を免除する制度そのものである。
- イ．介護職員の制服購入費を給付する制度である。
- ウ．介護施設の建物全体を建設する補助金である。
- エ．身体機能を補完・代替し、日常生活や社会生活を支える補装具の購入・修理等に関する給付である。

答え・解説

正答：エ

ア：年金保険料制度とは別である。
イ：職員の制服費ではない。
ウ：施設整備費ではない。
エ：補装具費は障害者総合支援法の自立支援給付の一つである。
総合解説：補装具費は障害者総合支援法の自立支援給付の一つである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0069

障害福祉・権利擁護・地域 > 障害者総合支援制度 | 難易度：標準

65歳になった障害福祉サービス利用者への支援について、最も適切な考え方はどれか。

ア．介護保険に相当する給付がある場合の調整規定を踏まえつつ、本人の状態や必要性を確認し、制度を機械的に一律適用しない。

イ．介護福祉職が本人に代わって制度選択を無条件に決める。

ウ．65歳になった瞬間、すべての障害福祉サービスが法律上自動終了する。

エ．介護保険制度は障害者には一切適用されない。

答え・解説

正答：ア

ア：障害者総合支援法には他法給付との調整があるが、個別のサービス内容や要件を確認して適切に支援する必要がある。

イ：本人への説明と意思尊重、関係機関との調整が必要である。

ウ：一律に全サービスが自動終了するわけではなく、給付調整や個別要件を確認する。

エ：年齢・被保険者要件等を満たせば介護保険が関係する。

総合解説：障害者総合支援法には他法給付との調整があるが、個別のサービス内容や要件を確認して適切に支援する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0070

障害福祉・権利擁護・地域 > 障害者総合支援制度 | 難易度：応用

障害福祉サービスの利用を検討するAさんが「一人暮らしを続けたい」と希望している。支援者の対応として最も適切なものはどれか。

ア．制度名だけを伝え、具体的な生活目標は確認しない。

イ．Aさんの希望を起点に、必要な介護・訓練・相談支援や地域資源を組み合わせる。

ウ．安全を理由に本人の希望を聞かず施設入所だけを選ぶ。

エ．家族が反対したら本人への説明を行わず支援を終了する。

答え・解説

正答：イ

ア：サービスは本人の生活目標と結びつけて検討する必要がある。

イ：障害者総合支援制度は地域での自立した生活を支えることを目的とし、本人中心の支援が基本である。

ウ：安全配慮は必要だが、本人の意思を無視して一律に生活の場を決めるのは適切でない。

エ：本人の意思と状況を丁寧に確認し、必要な調整を行う。

総合解説：障害者総合支援制度は地域での自立した生活を支えることを目的とし、本人中心の支援が基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0071

障害福祉・権利擁護・地域 > 権利擁護・成年後見 | 難易度：基礎

法定後見制度の3つの類型として、正しいものはどれか。

- ア．年金、医療、介護である。
- イ．要支援、要介護、重介護である。
- ウ．後見、保佐、補助である。
- エ．居宅、施設、地域密着である。

答え・解説

正答：ウ

ア：社会保険制度の種類であり成年後見制度ではない。

イ：これは成年後見制度の類型ではない。

ウ：法定後見制度は本人の判断能力の程度に応じて後見・保佐・補助に分かれる。

エ：介護保険サービスの類型に近い区分である。

総合解説：法定後見制度は本人の判断能力の程度に応じて後見・保佐・補助に分かれる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0072

障害福祉・権利擁護・地域 > 権利擁護・成年後見 | 難易度：標準

法定後見制度の対象者について、最も適切な組合せはどれか。

- ア．補助が最も判断能力低下が大きく、後見が最も軽い。
- イ．3類型は判断能力と無関係に年齢だけで決まる。
- ウ．要介護度だけで自動的に3類型が決まる。
- エ．補助は判断能力が不十分、保佐は著しく不十分、後見は欠けているのが通常の状態にある人を対象とする。

答え・解説

正答：エ

ア：程度の対応が逆である。

イ：年齢ではなく判断能力の状態が基準となる。

ウ：要介護認定と成年後見の判断能力評価は別制度である。

エ：裁判所は判断能力の程度に応じて補助・保佐・後見の制度を案内している。

総合解説：裁判所は判断能力の程度に応じて補助・保佐・後見の制度を案内している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0073

障害福祉・権利擁護・地域 > 権利擁護・成年後見 | 難易度：標準

任意後見制度について、最も適切な説明はどれか。

ア．本人が十分な判断能力のあるうちに将来の支援者や支援内容を契約で定め、判断能力低下後に任意後見監督人の選任を経て効力が生じる。

イ．判断能力が低下した後に家庭裁判所が本人の意思と無関係に契約を作る制度である。

ウ．介護保険の要介護認定と同時に自動開始する。

エ．任意後見人は家庭裁判所の監督を一切受けない。

答え・解説

正答：ア

ア：任意後見は本人の事前の意思に基づく契約を基礎とする制度である。

イ：任意後見契約は判断能力があるうちに本人が締結する。

ウ：介護認定とは別の法制度である。

エ：任意後見監督人が家庭裁判所により選任され、監督の仕組みがある。

総合解説：任意後見は本人の事前の意思に基づく契約を基礎とする制度である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0074

障害福祉・権利擁護・地域 > 権利擁護・成年後見 | 難易度：基礎

成年後見人の役割として、最も適切なものはどれか。

ア．本人の生活上のすべての行動を強制的に決める。

イ．本人の意思を尊重しながら、財産管理や生活・療養・介護等に関する法律行為を支援する。

ウ．介護サービスを自ら身体介護として提供することが法定の中心業務である。

エ．要介護度を変更する権限を持つ。

答え・解説

正答：イ

ア：本人の意思尊重が求められ、生活を全面的に支配する制度ではない。

イ：成年後見人は本人の利益を図り、財産管理や身上保護に関する事務を行う。

ウ：後見人の中心は法律行為や財産管理等であり、直接介護そのものではない。

エ：要介護度は介護保険の認定制度で決定される。

総合解説：成年後見人は本人の利益を図り、財産管理や身上保護に関する事務を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0075

障害福祉・権利擁護・地域 > 権利擁護・成年後見 | 難易度：標準

成年被後見人が行った法律行為について、民法上の取扱いとして最も適切なものはどれか。

ア．すべての行為が当然に無効となる。

イ．日用品の購入も必ず成年後見人の事前許可がないと無効になる。

ウ．原則として取り消すことができるが、日用品の購入など日常生活に関する行為は取り消しの対象外である。

エ．成年被後見人には法律行為を行う機会を一切認めない。

答え・解説

正答：ウ

ア：取り消すことができるのであって、すべてが当然無効という規定ではない。

イ：日常生活に関する行為は取消しの対象外とされている。

ウ：民法第9条は、成年被後見人の法律行為の取消しを認めつつ、日常生活に関する行為を除外している。

エ：制度は本人の権利を守るための支援であり、生活行為を全面禁止するものではない。

総合解説：民法第9条は、成年被後見人の法律行為の取消しを認めつつ、日常生活に関する行為を除外している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0076

障害福祉・権利擁護・地域 > 権利擁護・成年後見 | 難易度：応用

法定後見制度で成年後見人等を選任する機関はどこか。

ア．市町村の介護認定審査会である。

イ．地域包括支援センターが単独で選任する。

ウ．介護施設の施設長である。

エ．家庭裁判所である。

答え・解説

正答：エ

ア：介護認定審査会は要介護認定の審査判定を行う。

イ：地域包括支援センターは相談支援等を行うが、法定後見人の選任権限は家庭裁判所にある。

ウ：施設長に法定後見人を選任する権限はない。

エ：後見・保佐・補助の開始や後見人等の選任は家庭裁判所の審判により行われる。

総合解説：後見・保佐・補助の開始や後見人等の選任は家庭裁判所の審判により行われる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0077

障害福祉・権利擁護・地域 > 権利擁護・成年後見 | 難易度：標準

成年被後見人Aさんと成年後見人Bさんが共同相続人となり、遺産分割で利害が対立する可能性がある。対応として最も適切なものはどれか。

- ア．監督人の有無などを確認し、必要に応じて特別代理人の選任等、利益相反を回避する手续をとる。
- イ．介護職員が口頭で承認すれば手続は不要である。
- ウ．Aさんの相続権を放棄したものとして扱う。
- エ．Bさんが自分とAさん双方をそのまま代理して決める。

答え・解説

正答：ア

ア：本人と後見人の利益が相反する法律行為では、本人の利益を守るため特別な代理の仕組みが必要となる。

イ：法的な利益相反には所定の法的手続が必要である。

ウ：本人の権利を勝手に放棄させることはできない。

エ：利益相反では本人の権利保護が損なわれるおそれがある。

総合解説：本人と後見人の利益が相反する法律行為では、本人の利益を守るため特別な代理の仕組みが必要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0078

障害福祉・権利擁護・地域 > 権利擁護・成年後見 | 難易度：基礎

成年後見制度を利用するAさんが、日常の買物について自分で選びたいと話している。支援者の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．本人には説明せず、職員と後見人だけで決める。
- イ．Aさんの意思と能力を尊重し、必要な範囲だけ支援しながら自分で選べる機会を確保する。
- ウ．判断に時間がかかるため選択の機会をなくす。
- エ．成年後見制度利用者なので、日常の選択もすべて後見人が決める。

答え・解説

正答：イ

ア：本人への分かりやすい説明と意思確認が重要である。

イ：成年後見制度を利用していても本人の自己決定を最大限尊重し、必要以上の権利制限を避ける。

ウ：時間がかかることを理由に自己決定機会を奪うのは不適切である。

エ：日常生活上の選択まで一律に奪うのは適切でない。

総合解説：成年後見制度を利用していても本人の自己決定を最大限尊重し、必要以上の権利制限を避ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0079

障害福祉・権利擁護・地域 > 権利擁護・成年後見 | 難易度：標準

成年後見人の権限について、最も適切なものはどれか。

ア．本人の住民票を自由に抹消できる。

イ．要介護認定を後見人が単独で確定できる。

ウ．財産管理や契約等の法律行為を支援するが、本人に代わる包括的な医療行為への同意権が当然に付与されるわけではない。

エ．本人の治療内容を医師に代わって自由に決定できる。

答え・解説

正答：ウ

ア：本人の利益と法令に従う必要があり、自由な権限ではない。

イ：要介護認定は市町村の認定手続による。

ウ：成年後見人の権限は法定の範囲にあり、すべての人格的意思決定を代理できるわけではない。

エ：医療判断そのものを後見人が医師に代わって行う権限はない。

総合解説：成年後見人の権限は法定の範囲にあり、すべての人格的意思決定を代理できるわけではない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0080

障害福祉・権利擁護・地域 > 権利擁護・成年後見 | 難易度：応用

認知症のある独居高齢者Aさんについて、訪問販売による高額契約が繰り返され財産被害が疑われる。介護福祉職の初期対応として最も適切なものはどれか。

ア．本人の外出を禁止して販売業者との接触を完全に断つ。

イ．本人に無断で財産を介護職員が預かり管理する。

ウ．契約被害は介護と無関係なので記録も相談もしない。

エ．Aさんの安全と意思を確認し、上司や地域包括支援センター等と共有して、消費生活相談や成年後見制度など必要な権利擁護支援につなぐ。

答え・解説

正答：エ

ア：本人の権利を過度に制限するのではなく、必要な権利擁護手段を検討する。

イ：介護職員に包括的な財産管理権限はなく、無断管理は不適切である。

ウ：権利侵害や生活上の危険につながるため支援課題として対応する。

エ：財産被害では本人の意思を尊重しながら、地域包括支援センターや専門機関との連携を図ることが重要である。

総合解説：財産被害では本人の意思を尊重しながら、地域包括支援センターや専門機関との連携を図ることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0081

障害福祉・権利擁護・地域 > 地域福祉・地域包括ケア | 難易度：基礎

地域包括ケアシステムの構成要素として、最も適切な組合せはどれか。

- ア．住まい、医療、介護、予防、生活支援である。
- イ．介護保険、医療保険、雇用保険の3つだけである。
- ウ．教育、司法、税務、外交、貿易である。
- エ．施設介護、入院医療、年金だけである。

答え・解説

正答：ア

ア：厚生労働省は、これらが一体的に確保される地域の支援体制として地域包括ケアシステムを示している。
イ：保険制度の種類だけを示す概念ではない。
ウ：地域包括ケアの基本5要素ではない。
エ：在宅生活を含む幅広い5要素を一体化する考え方である。
総合解説：厚生労働省は、これらが一体的に確保される地域の支援体制として地域包括ケアシステムを示している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0082

障害福祉・権利擁護・地域 > 地域福祉・地域包括ケア | 難易度：標準

地域包括ケアシステムが目指す生活の姿として、最も適切なものはどれか。

- ア．地域ごとの差をなくし全国で全く同じ資源配置にすることである。
- イ．重度な要介護状態となっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられることである。
- ウ．要介護状態になった人は全員同じ施設へ移ることである。
- エ．医療と介護を完全に分離することである。

答え・解説

正答：イ

ア：地域特性に応じた構築が求められる。
イ：地域包括ケアは高齢者の尊厳保持と自立生活支援を目的に、地域での生活継続を支える。
ウ：生活の場を一律に施設へ限定する考え方ではない。
エ：医療・介護等の連携が重要である。
総合解説：地域包括ケアは高齢者の尊厳保持と自立生活支援を目的に、地域での生活継続を支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0083

障害福祉・権利擁護・地域 > 地域福祉・地域包括ケア | 難易度：標準

地域包括支援センターの目的として、最も適切なものはどれか。

ア．成年後見人を裁判所に代わって選任する。

イ．介護施設への入所判定だけを行う。

ウ．地域住民の心身の健康保持と生活の安定に必要な援助を行い、保健医療の向上と福祉の増進を包括的に支援する。

エ．年金額の決定だけを行う。

答え・解説

正答：ウ

ア：後見人の選任は家庭裁判所が行う。

イ：役割は入所判定だけではなく、総合相談・権利擁護・介護予防等を含む。

ウ：地域包括支援センターは高齢者の生活を包括的に支える地域拠点である。

エ：年金決定機関ではない。

総合解説：地域包括支援センターは高齢者の生活を包括的に支える地域拠点である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0084

障害福祉・権利擁護・地域 > 地域福祉・地域包括ケア | 難易度：基礎

地域包括支援センターで連携して業務を担う代表的な専門職の組合せとして、最も適切なものはどれか。

ア．裁判官、税理士、建築士だけである。

イ．医師だけで全業務を行う。

ウ．介護福祉士1人だけを必置とする制度である。

エ．保健師等、社会福祉士、主任介護支援専門員等である。

答え・解説

正答：エ

ア：センターの代表的専門職構成ではない。

イ：多職種の連携を基本とする。

ウ：センターは複数分野の専門職が連携する体制である。

エ：地域包括支援センターでは保健・福祉・ケアマネジメントの専門職が連携して支援する。

総合解説：地域包括支援センターでは保健・福祉・ケアマネジメントの専門職が連携して支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0085

障害福祉・権利擁護・地域 > 地域福祉・地域包括ケア | 難易度：標準

高齢者Aさんから「介護だけでなく、近所とのトラブルやお金のことも不安」と相談があった。地域包括支援センターの対応として最も適切なものはどれか。

ア．Aさんの生活課題を幅広く把握し、必要に応じて保健・医療・福祉・権利擁護など適切な機関につなぐ。

イ．介護保険サービス以外の相談は受けない。

ウ．近所との問題は本人だけで解決するように求める。

エ．財産に関する不安があるため職員が直ちに預金通帳を預かる。

答え・解説

正答：ア

ア：総合相談支援では単一制度に限定せず、生活全体を捉えて必要な支援につなぐ。

イ：総合相談は介護保険だけに限定されない。

ウ：生活課題として必要な支援先につなぐことができる。

エ：権限なく財産を管理するのではなく権利擁護機関へつなぐ。

総合解説：総合相談支援では単一制度に限定せず、生活全体を捉えて必要な支援につなぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0086

障害福祉・権利擁護・地域 > 地域福祉・地域包括ケア | 難易度：応用

地域ケア会議を活用する意義として、最も適切なものはどれか。

ア．サービス利用者の苦情を隠すために開催する。

イ．個別事例の検討を通じて支援を充実させるとともに、地域課題の把握や資源開発、政策形成につなげる。

ウ．要介護認定の一次判定を行うためだけの会議である。

エ．地域住民を支援から排除するための会議である。

答え・解説

正答：イ

ア：課題を共有し支援や地域づくりに活かす場であり隠蔽のためではない。

イ：地域ケア会議は個別支援だけでなく、地域課題の発見や地域づくりにもつなげる機能を持つ。

ウ：要介護認定の一次判定とは別である。

エ：地域の多様な主体との連携や課題解決を促す。

総合解説：地域ケア会議は個別支援だけでなく、地域課題の発見や地域づくりにもつなげる機能を持つ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0087

障害福祉・権利擁護・地域 > 地域福祉・地域包括ケア | 難易度：標準

市町村地域福祉計画に盛り込む事項として、社会福祉法に示されているものはどれか。

- ア．国の外交政策だけである。
- イ．個々の介護職員の勤務評価だけである。
- ウ．福祉サービスの適切な利用、地域福祉活動への住民参加、包括的支援体制の整備などである。
- エ．介護保険の要介護認定結果だけである。

答え・解説

正答：ウ

ア：地域福祉計画の対象事項ではない。

イ：個人の人事評価計画ではない。

ウ：社会福祉法第107条は高齢・障害・児童等に共通する事項や住民参加、包括的支援体制等を計画事項としている。

エ：地域福祉全体の推進に関する幅広い事項を扱う。

総合解説：社会福祉法第107条は高齢・障害・児童等に共通する事項や住民参加、包括的支援体制等を計画事項としている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0088

障害福祉・権利擁護・地域 > 地域福祉・地域包括ケア | 難易度：基礎

「地域共生社会」の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．専門職以外の住民は地域福祉に参加しない。
- イ．複数の課題がある世帯は各制度が互いに連絡せず別々に対応する。
- ウ．高齢者だけを地域活動の対象とする。
- エ．制度・分野ごとの縦割りや支える側・支えられる側という関係を越え、住民と多様な主体が参加し支え合う地域を目指す。

答え・解説

正答：エ

ア：住民参加や多様な主体の協働を重視する。

イ：複合課題では分野横断の連携が重要である。

ウ：年齢や属性に限定しない包括的な地域づくりを目指す。

エ：地域共生社会は、人と人のつながりや参加・協働を基盤に、複合的な生活課題を地域全体で支える考え方である。

総合解説：地域共生社会は、人と人のつながりや参加・協働を基盤に、複合的な生活課題を地域全体で支える考え方である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0089

障害福祉・権利擁護・地域 > 地域福祉・地域包括ケア | 難易度：標準

8050世帯のように、親の介護、子のひきこもり、生活困窮など複数課題が重なる世帯への地域支援として、最も適切なものはどれか。

ア．一つの制度だけに押し込まず、関係機関が連携して世帯全体の課題と本人たちの希望を把握し、包括的に支援する。

イ．最初に相談した窓口がすべて単独で解決しなければならない。

ウ．本人たちの希望を確認せず、世帯を分離することだけを目標にする。

エ．介護の問題だけを扱い、他の課題は一切把握しない。

答え・解説

正答：ア

ア：複雑化・複合化した地域生活課題では、属性別制度を超えた包括的な支援体制が求められる。

イ：必要に応じて関係機関が役割分担し連携する。

ウ：本人の意思を尊重しながら包括的に支援する必要がある。

エ：世帯内の課題が相互に影響するため全体像の把握が必要である。

総合解説：複雑化・複合化した地域生活課題では、属性別制度を超えた包括的な支援体制が求められる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0090

障害福祉・権利擁護・地域 > 地域福祉・地域包括ケア | 難易度：応用

地域包括ケアシステムを構築する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．地域住民の意見は専門知識がないため計画に反映しない。

イ．人口構造、医療・介護資源、交通、住民活動など地域の実情を分析し、地域特性に応じた体制をつくる。

ウ．介護保険給付費だけを見て、医療・住まい・生活支援は分析しない。

エ．全国で同じサービス数・同じ配置に統一する。

答え・解説

正答：イ

ア：住民参加や地域ニーズの把握は重要である。

イ：地域包括ケアは全国一律の形ではなく、市町村等が地域特性を踏まえて構築することが重要である。

ウ：地域包括ケアは複数要素の連携が前提である。

エ：人口構造や資源は地域で異なるため一律配置は適切でない。

総合解説：地域包括ケアは全国一律の形ではなく、市町村等が地域特性を踏まえて構築することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0091

人間関係とチームコミュニケーション > 関係形成・自己覚知 | 難易度：基礎

対人援助における「自己覚知」の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．利用者の性格を職員の経験だけで分類することである。
- イ．感情を持たないようにして利用者と関わることである。
- ウ．自分の価値観、感情、思考の傾向が利用者との関わりに及ぼす影響を意識することである。
- エ．自分の感情をすべて利用者に率直に伝えることである。

答え・解説

正答：ウ

ア：他者を一方的に分類することは自己覚知ではない。

イ：感情をなくすのではなく、感情に気づき専門的に扱うことが重要である。

ウ：自己覚知は、自分自身の感情や価値観、反応の特徴を理解することである。

エ：自己覚知は自己開示そのものではなく、自分の反応を把握し支援への影響を調整することである。

総合解説：介護職が自分の価値観を無自覚に利用者へ押しつけないため、自己覚知は専門的な関係形成の基礎になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0092

人間関係とチームコミュニケーション > 関係形成・自己覚知 | 難易度：標準

介護職Aさんは、利用者Bさんが昼まで寝ていることに「怠けている」と感じた。自己覚知を踏まえた対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．自分の不快感をそのままBさんに伝えて改善を求める。
- イ．「規則正しい生活が正しい」と考え、起床時刻を一方的に変更する。
- ウ．Bさんの生活歴は確認せず、他の利用者と同じ日課にする。
- エ．自分の生活習慣を基準に評価していないか振り返り、Bさんの生活歴や希望、体調を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：援助者の感情を未整理のまま利用者に向けるのは適切でない。

イ：介護職の価値観を本人に押しつける対応である。

ウ：個別性を無視しており、関係形成にも不利である。

エ：援助者自身の「こうあるべき」という価値観が評価に影響していないかを点検することが自己覚知につながる。

総合解説：利用者理解では、介護職自身の価値観と本人の生活習慣を区別し、本人の背景と意思を確認する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0093

人間関係とチームコミュニケーション > 関係形成・自己覚知 | 難易度：標準

利用者が会話中に黙り込んだ場面で、他者理解の観点から介護職がとる対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．表情や行動だけで結論づけず、本人の言葉や生活背景を確認しながら理解を深める。
- イ．家族の説明だけで本人の希望を確定する。
- ウ．沈黙している人は必ず怒っていると判断する。
- エ．同じ病名の利用者は同じ気持ちだと考える。

答え・解説

正答：ア

ア：他者理解では観察に加え、本人の語りや背景を確認し、自分の推測を事実と混同しないことが重要である。

イ：可能な限り本人自身の意向確認が必要である。

ウ：沈黙の意味は様ではなく、感情や理由を確認する必要がある。

エ：同じ状態でも経験や価値観は個人ごとに異なる。

総合解説：人間関係の形成には、自分の解釈を絶対視せず、利用者の視点を確認し続ける姿勢が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0094

人間関係とチームコミュニケーション > 関係形成・自己覚知 | 難易度：基礎

介護職による自己開示について、最も適切なものはどれか。

- ア．自己開示は一切してはならない。
- イ．利用者との関係形成に役立つ範囲で、目的を考えて限定的に用いる。
- ウ．私生活の悩みを利用者に詳しく聞いてもらう。
- エ．信頼関係を作るため、家族の個人情報まで話す。

答え・解説

正答：イ

ア：常に禁止されるものではなく、目的と程度を検討する。

イ：自己開示は関係形成に役立つ場合があるが、利用者の利益と援助関係を基準に範囲を判断する。

ウ：援助関係が逆転し、利用者に負担をかけるおそれがある。

エ：第三者のプライバシーを開示するのは不適切である。

総合解説：専門的援助関係では、介護職自身の満足のためではなく、利用者との信頼形成に資するかを考えて自己開示を用いる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0095

人間関係とチームコミュニケーション > 関係形成・自己覚知 | 難易度：標準

対人援助における「ラポール」に最も近い説明はどれか。

- ア．会話を短時間で終わらせるための質問技法である。
- イ．介護職が利用者のすべての希望に無条件で従う状態である。
- ウ．相互に安心して関われる信頼関係が形成されている状態である。
- エ．利用者と介護職が私的な友人関係になることである。

答え・解説

正答：ウ

ア：ラポールは質問技法ではなく関係性を表す。

イ：信頼関係と無条件の服従は異なる。

ウ：ラポールは、相互の信頼や安心感に基づく関係を表す。

エ：専門的援助関係は私的友人関係とは区別される。

総合解説：ラポールは単に話が多いことではなく、相手が安心して意思や感情を表出できる関係の基盤である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0096

人間関係とチームコミュニケーション > 関係形成・自己覚知 | 難易度：応用

利用者Cさんと話すとき、介護職が近づくとCさんが身体を後ろへ引いた。対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．聞こえにくいと決めつけ、さらに顔を近づける。
- イ．拒否的な性格だと判断して会話を打ち切る。
- ウ．距離は介護職が決めるものなので変更しない。
- エ．いったん距離を取り、Cさんが安心できる位置を確認して会話を続ける。

答え・解説

正答：エ

ア：本人の反応を無視して近づくと不安を高める可能性がある。

イ：一つの行動だけで性格を決めつけるのは不適切である。

ウ：相手が安心できる距離への配慮が必要である。

エ：身体を引く反応は距離への不快感を示す可能性があり、相手の反応を見ながら物理的・心理的距離を調整する。

総合解説：パーソナルスペースには個人差があり、介護場面でも本人の反応や文化、状況を踏まえて距離を調整する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0097

人間関係とチームコミュニケーション > 関係形成・自己覚知 | 難易度：標準

新人介護職Dさんは利用者から厳しい言葉を受け、眠れない状態が続いている。最初の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．上司や同僚などに状況とつらさを相談し、助言や支援を受ける。
- イ．気分を紛らわせるため毎晩飲酒する。
- ウ．自分だけで解決すべきだと考え、誰にも話さない。
- エ．利用者との関わりをすべて避け続ける。

答え・解説

正答：ア

ア：対人援助職のストレスは抱え込まず、職場内の相談や支援につなげることが重要である。

イ：飲酒への依存は健康を損ない、適切なストレス対処ではない。

ウ：孤立して抱え込むと状態が悪化する可能性がある。

エ：必要な支援を受けず回避だけを続ける対応は適切でない。

総合解説：介護福祉士国家試験でも、対人関係とストレスへの適切な対処として周囲への相談・支援活用が問われる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0098

人間関係とチームコミュニケーション > 関係形成・自己覚知 | 難易度：基礎

グループダイナミクスの説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．個人の身体機能だけを評価する方法である。
- イ．集団の中で、メンバー同士の相互作用が個人や集団全体の行動に影響する過程である。
- ウ．介護保険料の算定方法である。
- エ．一人で行う自己学習の方法である。

答え・解説

正答：イ

ア：集団内の相互作用を扱う概念である。

イ：グループダイナミクスは、集団内の関係や相互作用が生み出す力学を指す。

ウ：社会保険制度上の算定概念ではない。

エ：集団における相互作用を対象とする。

総合解説：チームを理解する際は、個々の能力だけでなく、役割、規範、関係性など集団全体の相互作用を見る必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0099

人間関係とチームコミュニケーション > 関係形成・自己覚知 | 難易度：標準

利用者Eさんから介護職に「あなたの個人携帯番号を教えて。休日にも相談したい」と頼まれた。対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．信頼の証として個人携帯番号を教える。
- イ．理由を説明せず「無理です」とだけ答える。
- ウ．Eさんの不安を受け止めたうえで、事業所の連絡方法や相談体制を説明する。
- エ．休日は一切相談できないと決めつける。

答え・解説

正答：ウ

ア：私的連絡先の交換は境界を曖昧にし、継続的な支援体制にも適さない。
イ：境界は守る必要があるが、不安を受け止め代替手段を説明することが望ましい。
ウ：専門的援助関係では、利用者の不安を理解しつつ、私的関係へ移行しないよう組織的な連絡手段を用いる。
エ：事業所の相談体制や緊急連絡方法を確認して案内する。
総合解説：関係形成では親しさだけでなく専門職としての境界も重要であり、必要な支援を正式な体制につなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0100

人間関係とチームコミュニケーション > 関係形成・自己覚知 | 難易度：応用

介護職Fさんは、無口な利用者を「協力する気がない人」と捉えていた。関係形成を改善する方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．家族にも「非協力的な人」と伝える。
- イ．本人の反応を待たず、介護職がすべて決める。
- ウ．評価は正しいと考え、本人への説明を減らす。
- エ．自分の評価が先入観になっていないか振り返り、本人が話しやすい方法や時間、環境を探る。

答え・解説

正答：エ

ア：未確認の評価を事実のように共有するのは不適切である。
イ：意思表示の機会を奪う対応である。
ウ：先入観を固定すると関係形成を妨げる。
エ：無口という観察事実と「協力する気がない」という解釈を分け、自分の認知の偏りを点検する必要がある。
総合解説：自己覚知と他者理解を組み合わせることで、表面的な行動から一方的に人物評価することを避け、より適切なコミュニケーションを探る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0101

人間関係とチームコミュニケーション > 受容・共感・傾聴 | 難易度：基礎

コミュニケーションにおける「受容」の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．相手の感情や考えを、まずその人のものとして否定せず受け止めることである。
- イ．問題行動もすべて許可することである。
- ウ．自分の価値観に合う話だけ聞くことである。
- エ．相手の言うことには必ず賛成することである。

答え・解説

正答：ア

ア：受容は、相手の経験や感情を尊重して受け止める態度であり、内容に全面的に賛成することとは異なる。

イ：行為の是非と、感情・考えを受け止めることは区別する。

ウ：選別的に受け止めることは受容的態度ではない。

エ：受容と賛成・同意は同じではない。

総合解説：受容は相手の表出を促す基礎的態度であり、不適切な行為まで肯定することを意味しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0102

人間関係とチームコミュニケーション > 受容・共感・傾聴 | 難易度：標準

「共感的理解」として、最も適切なものはどれか。

- ア．相手をかわいそうな人として見る。
- イ．相手の立場から、その人がどのように感じているかを理解しようとする。
- ウ．相手の感情を変えるため、すぐ励ます。
- エ．自分ならどう感じるかだけを基準に判断する。

答え・解説

正答：イ

ア：一方的な同情と共感は異なる。

イ：共感は相手の内的世界を相手の立場から理解しようとする態度である。

ウ：まず感情を理解することが重要で、性急な励ましは表出を妨げることがある。

エ：自分の感情を基準にするのではなく相手の立場から理解する。

総合解説：共感では援助者自身の感情を中心にするのではなく、相手の経験を理解し、その理解を必要に応じて言葉で返す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0103

人間関係とチームコミュニケーション > 受容・共感・傾聴 | 難易度：標準

利用者Gさんが「家に帰りたい」と繰り返し話している。傾聴を基本とした最初の応答として、最も適切なものはどれか。

ア．「その話はもう聞きました」と話題を変える。

イ．「帰れないので諦めてください」と説得する。

ウ．「家に帰りたいと思っているのですね」と気持ちを受け止め、話の続きを促す。

エ．「ここがあなたの家です」とすぐ訂正する。

答え・解説

正答：ウ

ア：表出を遮り、関係形成を損なう。

イ：本人の気持ちを受け止めず結論だけを伝えている。

ウ：相手の言葉を受け止めて返すことで、思いや理由をさらに語りやすくなる。

エ：事実訂正を優先すると本人の感情や背景を聞く機会を失うことがある。

総合解説：傾聴では、正誤を急いで訂正する前に相手の思いに関心を向け、理解を深めることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0104

人間関係とチームコミュニケーション > 受容・共感・傾聴 | 難易度：基礎

利用者Hさんが「みんな忙しそうで、頼むのが悪い気がする」と話した。言い換えを用いた応答として、最も適切なものはどれか。

ア．「では何も頼まないでください」と答える。

イ．「遠慮する必要はありません」と結論だけ伝える。

ウ．「職員が忙しいのは仕方ありません」と職員側を弁護する。

エ．「手伝ってほしくても、職員に遠慮してしまうのですね」と返す。

答え・解説

正答：エ

ア：本人の意向を抑制する不適切な応答である。

イ：本人の思いを十分に確認していない。

ウ：本人の気持ちを受け止める応答になっていない。

エ：相手の語った内容や意味を簡潔に言い換えて確認することで、理解の共有につながる。

総合解説：言い換えは援助者の解釈を押しつけるのではなく、本人の言葉の意味を確認しながら会話を深める技法である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0105

人間関係とチームコミュニケーション > 受容・共感・傾聴 | 難易度：標準

利用者Iさんが写真を見ながら「もう友人はほとんど亡くなった」と目に涙を浮かべた。共感的な応答として、最も適切なものはどれか。

- ア．「大切な人たちを失って、寂しさを感じているんですね」と静かに返す。
- イ．涙の理由を聞かず、すぐテレビをつける。
- ウ．「昔のことは忘れた方がいいですよ」と励ます。
- エ．「誰でも年を取ればそうなります」と一般化する。

答え・解説

正答：ア

ア：表情や語りから感じ取った感情を決めつけない形で言語化して返すことは、共感的理解を伝える方法の一つである。

イ：感情表出を避ける対応になっている。

ウ：感情を否定する可能性がある。

エ：本人固有の喪失体験を軽視する応答である。

総合解説：感情の反映では、相手の感情を勝手に断定するのではなく、言葉と非言語情報をもとに確認しながら理解を示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0106

人間関係とチームコミュニケーション > 受容・共感・傾聴 | 難易度：応用

面接中に利用者が長く沈黙したときの対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．返答を得るため同じ質問を大声で繰り返す。
- イ．考えや感情を整理している可能性もあるため、表情を見ながら急かさず待つ。
- ウ．沈黙は拒否と決めつけ、面接を終了する。
- エ．不安にならないよう介護職が途切れなく話し続ける。

答え・解説

正答：イ

ア：急かしたり圧力をかけたりする対応は適切でない。

イ：沈黙には考える、感情を整える、言葉を探すなど様々な意味があり、直ちに会話を埋める必要はない。

ウ：沈黙の意味は様ではない。

エ：相手が考えたり表出したりする機会を奪うことがある。

総合解説：傾聴では沈黙もコミュニケーションの一部として捉え、相手のペースを尊重する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0107

人間関係とチームコミュニケーション > 受容・共感・傾聴 | 難易度：標準

利用者に自由に思いを語ってもらいたいとき、開かれた質問として最も適切なものはどれか。

ア．「今日は眠れましたか」

イ．「痛みはありますか」

ウ．「最近の生活で気になっていることを教えていただけますか」

エ．「朝食は食べましたか」

答え・解説

正答：ウ

ア：回答範囲が限定されやすい閉じられた質問である。

イ：「はい・いいえ」で答えやすい閉じられた質問である。

ウ：開かれた質問は「はい・いいえ」だけでなく、本人が自分の言葉で答えやすい。

エ：事実確認に適した閉じられた質問である。

総合解説：目的に応じて開かれた質問と閉じられた質問を使い分けることで、本人の語りを引き出したり事実を確認したりできる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0108

人間関係とチームコミュニケーション > 受容・共感・傾聴 | 難易度：基礎

利用者Jさんが「ここはなんだか嫌なんです」と話した。介護職の応答として、最も適切なものはどれか。

ア．「施設が嫌ということですね」と決めつける。

イ．「嫌でも慣れます」と説得する。

ウ．「そんなことを言っではいけません」と注意する。

エ．「どんなところを嫌だと感じているのか、もう少し教えていただけますか」と確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：本人が何を指しているか未確認である。

イ：気持ちや理由を確認していない。

ウ：表出を抑制し、関係形成を損なう。

エ：曖昧な表現の意味を本人に確かめる明確化によって、援助者の思い込みを減らせる。

総合解説：傾聴では、分からないことを分かったふりせず、本人の言葉の意味を丁寧に確認することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0109

人間関係とチームコミュニケーション > 受容・共感・傾聴 | 難易度：標準

面接の終わりに介護職が行う要約として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人が話した主な内容と希望を簡潔にまとめ、「この理解でよいですか」と確認する。
- イ．介護職の判断だけを伝え、本人には確認しない。
- ウ．本人の発言の一部だけを切り取り、都合のよい結論にする。
- エ．話した内容を一字一句すべて繰り返す。

答え・解説

正答：ア

ア：要約は会話の要点を整理し、相互の理解にずれがないか確認するために用いる。

イ：相互理解の確認にならない。

ウ：本人の意向を歪めるおそれがある。

エ：要約は主要な内容を簡潔に整理する技法である。

総合解説：要約は介護職の結論を押しつけるためではなく、本人の語りを整理して共有し、次の支援につなげる技法である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0110

人間関係とチームコミュニケーション > 受容・共感・傾聴 | 難易度：応用

利用者Kさんが「家族に迷惑をかけるくらいなら施設に入りたい」と話した。最初の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．「それなら施設入所を申し込みましょう」と直ちに決める。
- イ．「迷惑をかけたくないと感じているのですね。どのようなことを心配していますか」と思いを聴く。
- ウ．「家族は迷惑と思っていません」と根拠なく否定する。
- エ．「考えすぎです」と話を終える。

答え・解説

正答：イ

ア：本人の発言の背景や選択肢を十分に確認していない。

イ：結論を急がず、本人が何を不安に感じ、何を望んでいるのかをまず理解する。

ウ：本人の感情を否定する可能性がある。

エ：本人の不安を軽視している。

総合解説：支援者が早く解決策を示すより、受容・共感・傾聴を通して本人の意向や価値観を明確にすることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0111

人間関係とチームコミュニケーション > チームのコミュニケーション | 難易度：基礎

介護サービスにおけるチームのコミュニケーションで、最も重要な基盤はどれか。

- ア．職種ごとに目標を別々に決め、互いに知らせない。
- イ．経験年数が長い職員の意見だけを採用する。
- ウ．利用者の生活目標や支援方針を共有し、それぞれの役割を理解することである。
- エ．情報共有を減らして各職種の独立性を高める。

答え・解説

正答：ウ

ア：目標の不一致は支援の一貫性を損なう。

イ：役割や専門性を生かした協働が必要である。

ウ：チームは共通の目標に向けて、情報と役割を共有しながら協働する。

エ：必要な情報の共有はチームケアの基盤である。

総合解説：単に複数職種が関わるだけではチームにならず、利用者中心の目標と役割の共有が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0112

人間関係とチームコミュニケーション > チームのコミュニケーション | 難易度：標準

食事中にむせが増えた利用者について、多職種で検討することになった。介護職の発言として、最も適切なものはどれか。

- ア．他職種の意見は介護場面と関係ないので聞かない。
- イ．会議では観察事実を出さず、結論だけを求める。
- ウ．介護職の経験だけで嚥下機能を診断する。
- エ．日常の食事場面で観察した事実を共有し、他職種の評価も踏まえて支援方法を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：多職種の知見を共有することが安全な支援につながる。

イ：支援判断には具体的な事実の共有が重要である。

ウ：診断は介護職の役割ではなく、専門職との連携が必要である。

エ：介護職は生活場面の具体的観察を提供し、他職種の専門的評価と組み合わせることができる。

総合解説：多職種連携では、各職種が専門性を持ち寄り、互いの役割を尊重して利用者中心に統合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0113

人間関係とチームコミュニケーション > チームのコミュニケーション | 難易度：標準

チームにおけるリーダーの役割として、最も適切なものはどれか。

- ア．目標を共有し、メンバーの意見を引き出しながら役割調整や課題解決を進める。
- イ．異なる意見を禁止して全員を従わせる。
- ウ．問題が起きてもメンバーに任せ、調整しない。
- エ．すべての業務を自分一人で行う。

答え・解説

正答：ア

ア：リーダーは命令だけでなく、目標共有、調整、意思決定支援、メンバーの力を生かす役割を担う。

イ：意見交換を妨げると課題把握や改善が難しくなる。

ウ：リーダーには課題への働きかけや調整が求められる。

エ：チームメンバーの役割を生かすことが重要である。

総合解説：介護チームのリーダーシップは、利用者中心の目標達成に向けてチーム機能を高める働きである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0114

人間関係とチームコミュニケーション > チームのコミュニケーション | 難易度：基礎

フォロワーシップの行動として、最も適切なものはどれか。

- ア．チーム目標より自分の方法を優先する。
- イ．チーム目標を理解し、必要な情報や意見を主体的に出しながらリーダーと協働する。
- ウ．課題を見つけてもリーダーの仕事なので伝えない。
- エ．指示に疑問があっても必ず黙って従う。

答え・解説

正答：イ

ア：共通目標に基づく協働が必要である。

イ：フォロワーは受動的に従うだけでなく、目標達成のため主体的に貢献する。

ウ：課題の共有はチーム全体の責任である。

エ：安全上の疑問や必要な意見は適切に共有する必要がある。

総合解説：安全で質の高い介護には、メンバーが気づきを共有し、必要に応じて提案や確認を行うことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0115

人間関係とチームコミュニケーション > チームのコミュニケーション | 難易度：標準

介護チームの業務改善におけるPDCAサイクルの順序として、正しいものはどれか。

- ア．Check→Act→Plan→Doだけを1回行い終了する。
- イ．Planだけを詳細に作成し、実行や評価は行わない。
- ウ．Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）である。
- エ．Do→Plan→Act→Checkである。

答え・解説

正答：ウ

ア：PDCAは継続的に循環させる。

イ：実行・評価・改善まで含める必要がある。

ウ：PDCAは計画、実行、評価、改善を循環させて業務課題の解決につなげる方法である。

エ：PDCAの基本順序ではない。

総合解説：改善は一度決めて終わりではなく、結果を評価し次の計画へ反映する継続的な過程である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0116

人間関係とチームコミュニケーション > チームのコミュニケーション | 難易度：応用

会議で職員同士の意見が対立した。チーム運営として、最も適切な対応はどれか。

- ア．反対意見を出した職員を会議から外す。
- イ．役職が高い人の意見を理由なく採用する。
- ウ．対立を避けるため課題自体を議題から外す。
- エ．利用者の目標と事実情報に立ち返り、それぞれの根拠を確認して合意点を探る。

答え・解説

正答：エ

ア：多様な意見を封じる対応は適切でない。

イ：根拠と利用者中心の検討が必要である。

ウ：課題を残したままでは支援の不一致が続く。

エ：意見相違そのものを避けるのではなく、共通目標と根拠に基づいて検討することが重要である。

総合解説：異なる視点を建設的に扱えば、見落としの発見やより良い支援案につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0117

人間関係とチームコミュニケーション > チームのコミュニケーション | 難易度：標準

新人職員へのフィードバックとして、最も適切なものはどれか。

- ア．「移乗前にブレーキ確認を声に出した点は安全につながっていた。次はフットサポート確認も一緒にしよう」と具体的に伝える。
- イ．他の職員の前で欠点だけを強く責める。
- ウ．「向いていない」とだけ伝える。
- エ．失敗を避けるため何も伝えない。

答え・解説

正答：ア

ア：行動の事実と良かった点、改善点を具体的に伝えると学習につながりやすい。

イ：萎縮を招き、建設的な学習支援にならない。

ウ：人格的・抽象的評価では改善方法が分からない。

エ：必要な振り返りや学習機会が失われる。

総合解説：人材育成では人格評価ではなく観察可能な行動に基づき、次にどう改善するかが分かるフィードバックが有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0118

人間関係とチームコミュニケーション > チームのコミュニケーション | 難易度：基礎

OJT（On-the-Job Training）の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア．利用者への指導を介護職が行うことを指す。
- イ．実際の職場の業務を通して、上司や先輩から指導を受けながら学ぶ方法である。
- ウ．職場外の集合研修だけで学ぶ方法である。
- エ．職員が個人の意思だけで行う自己学習を指す。

答え・解説

正答：イ

ア：職員の人材育成方法としてのOJTの説明ではない。

イ：OJTは日常業務の中で実践と指導を結びつける人材育成方法である。

ウ：これは主にOff-JTに当たる。

エ：自己啓発はSDSの領域で扱われる。

総合解説：Off-JTは職場を離れた研修等、SDSは自己啓発支援と区別して理解する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0119

人間関係とチームコミュニケーション > チームのコミュニケーション | 難易度：標準

新人が「自分で考えながら改善案を見つけない」と話している。コーチング的な関わりとして、最も適切なものはどれか。

- ア．失敗するまで放置し、振り返りもしない。
- イ．答えをすべて一方的に教え、質問は受けない。
- ウ．質問を用いて本人の考えや気づきを引き出し、目標設定と行動を支援する。
- エ．考えさせるため必要な情報も提供しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：学習を支援する関わりとはいえない。

イ：これはコーチングより一方向的な指導に近い。

ウ：コーチングは相手の考えや可能性を引き出し、自律的な行動を支援する方法である。

エ：コーチングでも必要な情報提供や支援は行う。

総合解説：基本手順を明確に教えるティーチングと、問いかけで考えを引き出すコーチングは、学習者の状況に応じて使い分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0120

人間関係とチームコミュニケーション > チームのコミュニケーション | 難易度：応用

介護職が困難事例についてスーパービジョンを受ける意義として、最も適切なものはどれか。

- ア．利用者の責任を決めるためだけに行う。
- イ．介護職の私生活を評価することを主目的とする。
- ウ．上司が結論を命令し、振り返りを禁止する。
- エ．実践を振り返り、専門職としての判断や感情を整理し、より良い支援方法を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：利用者を非難するための仕組みではない。

イ：専門的実践の支援が中心である。

ウ：対話と振り返りを通じた支援が重要である。

エ：スーパービジョンは実践を支援・教育し、専門職の成長や適切な援助につなげる。

総合解説：困難事例では個人で抱え込まず、指導・支持・教育的な関わりを通して実践を振り返ることがチームの質向上にもなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0121

コミュニケーション技術 > 言語・非言語コミュニケーション | 難易度：基礎

言語的コミュニケーションに該当するものはどれか。

- ア．話し言葉や書き言葉によって意味を伝えることである。
- イ．表情だけで気持ちを示すことである。
- ウ．相手との距離を調整することである。
- エ．うなずきだけで応答することである。

答え・解説

正答：ア

ア：言語的コミュニケーションは、話す・書くなど言語記号を用いた意思疎通である。

イ：表情は非言語的コミュニケーションである。

ウ：物理的距離は非言語的要素である。

エ：うなずきは非言語的コミュニケーションである。

総合解説：実際の対人場面では言語情報だけでなく、表情、姿勢、声の調子など非言語情報も合わせて理解する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0122

コミュニケーション技術 > 言語・非言語コミュニケーション | 難易度：標準

利用者が「大丈夫です」と言いながら顔をしかめ、腹部を押さえている。介護職の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．「大丈夫」という言葉だけを採用して観察を終える。
- イ．言葉だけで問題なしと判断せず、表情や動作も踏まえて体調を確認する。
- ウ．顔をしかめるのは癖だと決めつける。
- エ．本人には聞かず家族にだけ確認する。

答え・解説

正答：イ

ア：非言語情報を無視している。

イ：言語情報と非言語情報が一致しない場合、双方を手がかりに状態を確認する必要がある。

ウ：状態を確認せず解釈するのは不適切である。

エ：まず本人の状態と意思を確認することが必要である。

総合解説：非言語的コミュニケーションは、本人が言葉にしにくい感情や体調変化を捉える重要な手がかりになる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0123

コミュニケーション技術 > 言語・非言語コミュニケーション | 難易度：標準

不安が強く、話の理解に時間がかかる利用者に説明する方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．時間短縮のため早口で一度に説明する。
- イ．理解できないと判断して本人への説明を省く。
- ウ．落ち着いた声で、短い内容に区切り、ゆっくり話して理解を確認する。
- エ．聞こえに関係なく常に大声で話す。

答え・解説

正答：ウ

ア：処理する情報量が増え、理解しにくくなる。

イ：本人が理解できるよう方法を工夫する必要がある。

ウ：声量、速度、間の取り方などは言葉の理解や安心感に影響する。

エ：大声がかえって聞き取りにくい場合もあり、本人に合う方法を確認する。

総合解説：内容だけでなく伝え方を本人に合わせ、理解を確認しながら進めることが納得と同意を支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0124

コミュニケーション技術 > 言語・非言語コミュニケーション | 難易度：基礎

聴き取りにくさがある利用者と重要な説明をする場面で、最も適切な環境調整はどれか。

- ア．逆光になる位置に介護職が立つ。
- イ．廊下を歩きながら重要事項を早口で説明する。
- ウ．テレビをつけたまま複数人が同時に話す。
- エ．テレビを消すなど周囲の雑音を減らし、互いの顔が見える落ち着いた場所を選ぶ。

答え・解説

正答：エ

ア：表情や口元が見えにくくなる。

イ：集中しにくく確認もしにくい。

ウ：雑音や発言の重なりは理解を妨げる。

エ：コミュニケーションを促す環境には、騒音、照明、座る位置などへの配慮が含まれる。

総合解説：伝える技術だけでなく、本人が集中しやすく情報を受け取りやすい物理的環境を整えることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0125

コミュニケーション技術 > 言語・非言語コミュニケーション | 難易度：標準

利用者に介護内容を説明するときの言葉の使い方として、最も適切なものはどれか。

- ア．専門用語を必要に応じて日常的な言葉に言い換え、具体的に説明する。
- イ．難しい内容は本人に説明しない。
- ウ．幼児に話すような言葉遣いに統一する。
- エ．専門職同士の略語をそのまま多用する。

答え・解説

正答：ア

ア：本人が理解できる表現を選ぶことが、意思表示や納得につながる。

イ：理解可能な方法を工夫して説明することが必要である。

ウ：成人としての尊厳を損なわない表現が必要である。

エ：利用者に意味が伝わらない可能性がある。

総合解説：分かりやすい説明では、情報を減らして隠すのではなく、内容を保ちながら言葉・量・提示方法を本人に合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0126

コミュニケーション技術 > 言語・非言語コミュニケーション | 難易度：応用

服薬に関する注意を説明した後、理解を確認する方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．「分かったと言ってください」と求める。
- イ．「どのようにするか、一緒に確認してもよいですか」と本人の言葉や動作で確認する。
- ウ．理解が不十分なら本人への説明を中止し家族だけに伝える。
- エ．説明したので理解したものとして確認しない。

答え・解説

正答：イ

ア：同意を誘導しており理解確認にならない。

イ：「分かりましたか」と尋ねるだけでなく、本人がどのように理解したかを双方向に確認する。

ウ：本人への説明方法を工夫することが基本である。

エ：情報提供と理解成立は同じではない。

総合解説：重要な情報では、説明した事実だけでなく、本人が理解し意思を表せているかを確認することが必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0127

コミュニケーション技術 > 言語・非言語コミュニケーション | 難易度：標準

複数の服から本人に着たいものを選んでもらうが、選択に迷っている。支援として、最も適切なものはどれか。

- ア．さらに多くの服を一度に提示する。
- イ．選べないことを能力不足と決めつける。
- ウ．本人の反応を見ながら選択肢を適度に絞り、実物を見せて選べるようにする。
- エ．迷うので介護職が好みを決める。

答え・解説

正答：ウ

ア：情報量が増えて選択が難しくなることがある。

イ：方法や環境を工夫する余地を検討する必要がある。

ウ：選択肢が多すぎて難しい場合、数を絞ったり具体物を使ったりして意思表出を支援できる。

エ：本人の意思表出の機会を奪う。

総合解説：本人の代わりに決める前に、理解しやすい情報提示や選びやすい環境を整えることが意思決定支援の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0128

コミュニケーション技術 > 言語・非言語コミュニケーション | 難易度：基礎

利用者の希望を確認する質問として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人に聞かず空いている時間に決める。
- イ．「午前の方が職員も助かるので午前でいいですね」と尋ねる。
- ウ．「午後は嫌ですね」と尋ねる。
- エ．「入浴は午前と午後なら、どちらがよいですか。ほかに希望はありますか」と尋ねる。

答え・解説

正答：エ

ア：本人の意向確認を省いている。

イ：介護職の都合を示して同意を誘導している。

ウ：答えを誘導する質問である。

エ：選択肢を示しつつ、介護職が望む答えへ誘導しない聞き方が本人の意向確認につながる。

総合解説：意思決定支援では、介護職側の都合を質問文に埋め込まず、本人が自由に意向を示せるようにする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0129

コミュニケーション技術 > 言語・非言語コミュニケーション | 難易度：標準

非言語的コミュニケーションの解釈について、最も適切なものはどれか。

- ア．一つの表情や姿勢だけで意味を断定せず、本人の普段の様子や状況、言葉と合わせて確認する。
- イ．笑顔なら痛みはないと判断する。
- ウ．腕を組んでいれば必ず怒っていると判断する。
- エ．視線を合わせない人は必ず話を拒否している。

答え・解説

正答：ア

ア：非言語サインには個人差や状況差があり、一つのサインだけで感情を断定するのは危険である。

イ：表情だけで身体状態を断定できない。

ウ：同じ姿勢でも意味は人や状況により異なる。

エ：文化、障害特性、不安など様々な理由があり得る。

総合解説：表情、視線、姿勢などは重要な情報だが、観察と解釈を分け、必要に応じて本人に意味を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0130

コミュニケーション技術 > 言語・非言語コミュニケーション | 難易度：応用

介護方法を変更する前のコミュニケーションとして、最も適切なものはどれか。

- ア．一度うなずけば今後の変更にもすべて同意したとみなす。
- イ．変更の目的と方法、本人への影響を分かりやすく説明し、質問や希望を聞いて納得を確認する。
- ウ．職員間で決めた後、本人には実施時にだけ伝える。
- エ．専門的判断なので理由は説明しない。

答え・解説

正答：イ

ア：同意は具体的な内容や状況に応じて確認する必要がある。

イ：納得と同意を得るには、情報提供と双方向の意思確認が必要である。

ウ：本人が考え意思を示す機会が不足する。

エ：本人が理解できるよう説明することが必要である。

総合解説：介護職が「安全のため」と考えていても一方的に変更せず、本人の理解と意向を支えるコミュニケーションを行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0131

コミュニケーション技術 > 障害特性に応じたコミュニケーション | 難易度：基礎

全盲の利用者Lさんが廊下に一人で立っている。初めて近づく介護職の声かけとして、最も適切なものはどれか。

- ア．本人ではなく同行者だけに話しかける。
- イ．無言で腕をつかんで移動させる。
- ウ．正面から自分の名前を名乗り、「何かお手伝いしましょうか」と声をかける。
- エ．少し離れた場所から手招きする。

答え・解説

正答：ウ

ア：本人を意思疎通の主体として扱う必要がある。

イ：突然触れられると驚きや不安につながる。

ウ：視覚情報が得にくい人には、突然身体に触れる前に、誰が声をかけているか分かるよう名乗ることが重要である。

エ：手招きは視覚情報に依存し、伝わらない可能性が高い。

総合解説：視覚障害の程度や支援方法には個人差があるため、まず本人に声をかけ、必要な援助を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0132

コミュニケーション技術 > 障害特性に応じたコミュニケーション | 難易度：標準

視覚障害のある利用者に椅子の位置を説明する方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．「そこです」とだけ伝える。
- イ．無言で椅子を本人の後ろに置く。
- ウ．大きな声で「椅子！」と繰り返す。
- エ．「右に一步進んだところに椅子があります」のように具体的な方向と距離を伝える。

答え・解説

正答：エ

ア：「そこ」は視覚に依存する指示語で位置が分かりにくい。

イ：位置情報が伝わらず転倒の危険もある。

ウ：声量では位置関係は伝わらない。

エ：「こちら」「あちら」など視覚に依存した指示語より、具体的な方向・距離を伝える方が分かりやすい。

総合解説：位置説明は本人が用いている方法や理解しやすい表現を確認しながら具体的に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0133

コミュニケーション技術 > 障害特性に応じたコミュニケーション | 難易度：標準

弱視の利用者Mさんが配布資料を読みづらそうにしている。対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．本人の希望を確認し、拡大文字、読み上げ、電子データなど利用しやすい方法を選ぶ。
- イ．全員に同じ小さな文字の資料だけを渡す。
- ウ．読めないと判断して資料を渡さない。
- エ．本人に確認せず必ず点字資料だけを用意する。

答え・解説

正答：ア

ア：視覚障害への情報保障には複数の方法があり、本人に適した方法を確認することが重要である。

イ：必要な情報へのアクセスが困難になる。

ウ：情報提供自体を省くのは不適切である。

エ：すべての視覚障害者が点字を利用するとは限らない。

総合解説：障害名だけで手段を決めつけず、視力や機器利用、本人の希望に応じて合理的な方法を選択する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0134

コミュニケーション技術 > 障害特性に応じたコミュニケーション | 難易度：基礎

難聴の利用者Nさんと話す方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．背後から大声で話す。
- イ．Nさんの正面で顔や口元が見えるようにし、ゆっくり明瞭に話し、必要に応じて筆談等を用いる。
- ウ．理解できないと決めつけ、家族だけに説明する。
- エ．複数の職員が同時に説明する。

答え・解説

正答：イ

ア：表情や口元が見えず、大声が必ずしも聞き取りやすさにつながらない。

イ：聴覚障害のある人には、視覚情報を活用し、本人に合うコミュニケーション方法を組み合わせる。

ウ：本人への情報提供と意思確認が必要である。

エ：発言が重なると情報を捉えにくくなる。

総合解説：聞こえ方や手話・筆談の利用状況は人によって異なるため、最初に本人の希望する方法を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0135

コミュニケーション技術 > 障害特性に応じたコミュニケーション | 難易度：標準

聴覚障害のある人とのコミュニケーションについて、最も適切なものはどれか。

- ア．聴覚障害があれば全員手話を使える。
- イ．補聴器をつけていれば普通の速度で必ず聞き取れる。
- ウ．手話、筆談、口話、補聴機器など、本人が使いやすい方法を確認して選ぶ。
- エ．筆談をすれば本人の理解確認は不要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：手話を使用しない人もいる。

イ：補聴器使用時も聞こえ方は個人差が大きい。

ウ：聴覚障害者のコミュニケーション方法は一様ではない。

エ：書けば必ず理解できるとは限らず、確認が必要である。

総合解説：「聴覚障害＝手話」と決めつけず、聞こえ方、言語、経験、本人の希望に応じた方法を用いることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0136

コミュニケーション技術 > 障害特性に応じたコミュニケーション | 難易度：応用

発話が聞き取りにくい利用者Oさんが何かを伝えようとしている。介護職の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．話すのが遅いため本人には質問しない。
- イ．大声で同じ質問を繰り返せば必ず伝わる。
- ウ．聞き取れなくても適当にうなずいて会話を終える。
- エ．分かったふりをせず、時間をとり、必要に応じて言葉・文字・指さしなどで内容を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：意思表出の機会を奪う。

イ：言語障害の特性によっては声量を上げて改善しない。

ウ：誤解のまま支援する危険がある。

エ：聞き取りにくい場合も、本人の発話を尊重し、理解できた内容を確認しながら意思疎通する。

総合解説：言語障害は意思や知的能力そのものを意味しない。相手のペースを尊重し、使える手段を組み合わせで確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0137

コミュニケーション技術 > 障害特性に応じたコミュニケーション | 難易度：標準

脳血管障害後に言葉が出にくい利用者Pさんと会話するとき、最も適切な方法はどれか。

ア．短く分かりやすく話し、返答を待ち、必要に応じて絵・文字・ジェスチャーや「はい・いいえ」で答えられる質問を併用する。

イ．返答を待たず、介護職が文章を完成させ続ける。

ウ．会話は締め、すべて家族に代弁してもらう。

エ．言葉が出ないので認知能力もないと判断する。

答え・解説

正答：ア

ア：言語表出が難しい場合は、本人の反応時間を確保し、利用できる複数の手段を組み合わせる。

イ：本人の表出機会を奪うことがある。

ウ：本人と直接意思疎通する工夫を続けることが重要である。

エ：言語機能の障害と認知能力は同一ではない。

総合解説：言葉が出にくいことを「理解できない」と同一視せず、本人の残存能力を生かした意思疎通を工夫する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0138

コミュニケーション技術 > 障害特性に応じたコミュニケーション | 難易度：基礎

知的障害のある利用者Qさんに新しい日課を説明する。方法として、最も適切なものはどれか。

ア．成人でも幼児語だけを使う。

イ．短く具体的な言葉で一つずつ説明し、写真や絵なども使って理解を確認する。

ウ．一度理解できなければ本人への説明をやめる。

エ．抽象的な説明を長時間一度に行う。

答え・解説

正答：イ

ア：分かりやすさと尊厳の保持を両立する必要がある。

イ：情報を分かりやすく構造化し、視覚の手がかりなど本人に合う方法を使う。

ウ：方法を変えて理解を支援することが重要である。

エ：情報処理の負担が大きくなることがある。

総合解説：理解しにくい場合は本人の能力を決めつけるのではなく、情報量、表現、提示手段、環境を工夫する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0139

コミュニケーション技術 > 障害特性に応じたコミュニケーション | 難易度：標準

予定変更に強い不安を示す発達障害のある利用者Rさんへの対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．不安を示すのはわがままだと注意する。
- イ．予定は口頭で一度だけ早口に伝える。
- ウ．変更内容をできるだけ早く具体的に伝え、予定表や視覚的な手がかりで見通しを示す。
- エ．慣れるため直前まで変更を知らせない。

答え・解説

正答：ウ

ア：障害特性や状況を理解せず非難するのは不適切である。

イ：本人に合う理解手段を工夫する必要がある。

ウ：見通しが持ちにくい人には、予定や変更を具体化・視覚化することが理解と安心に役立つ場合がある。

エ：予測不能性が不安を高める可能性がある。

総合解説：発達障害の特性は個人差が大きいため、本人が理解しやすい情報提示や刺激量の調整を個別に検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0140

コミュニケーション技術 > 障害特性に応じたコミュニケーション | 難易度：応用

認知症のある利用者Sさんに外出先を選んでもらう場面で、最も適切な対応はどれか。

- ア．昨日の希望と違うため、今日の希望は無効とする。
- イ．認知症なので家族だけに選んでもらう。
- ウ．早く決めるよう何度も急かす。
- エ．落ち着いた環境で、分かりやすい選択肢を示し、Sさんの言葉や表情を確認しながら時間をかけて意思を確かめる。

答え・解説

正答：エ

ア：意思は状況により変わることがあり、その時点の意思も丁寧に確認する。

イ：本人の意思確認を省くのは適切でない。

ウ：焦りや不安で意思表出が難しくなることがある。

エ：認知症があっても、本人が意思を形成・表明できるよう環境や情報提示を工夫する。

総合解説：認知症の診断だけで意思決定能力がないと決めつけず、本人の能力を最大限生かして意思決定を支援することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0141

コミュニケーション技術 > 障害特性に応じたコミュニケーション | 難易度：基礎

不安が強く、多くの情報を一度に受け取ると混乱しやすい利用者Tさんへの対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．落ち着いた環境で、一度に伝える内容を絞り、本人の反応を確認しながら進める。
- イ．刺激に慣れるまで騒がしい場所で話し続ける。
- ウ．不安をなくすため大量の情報を一度に説明する。
- エ．本人の話は症状だから聞く必要がないと判断する。

答え・解説

正答：ア

ア：精神障害を含め、本人の状態に応じて刺激や情報量、話すペースを調整することが重要である。

イ：状態に応じた環境調整が必要である。

ウ：情報過多が混乱を強めることがある。

エ：本人の体験や訴えを尊重して聴く必要がある。

総合解説：障害名だけで一律の対応を決めず、本人のその時の状態と希望に合わせてコミュニケーション方法を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0142

コミュニケーション技術 > 障害特性に応じたコミュニケーション | 難易度：標準

障害のある利用者とのコミュニケーション方法について、最も適切な考え方はどれか。

- ア．支援機器を導入したら人による確認は不要になる。
- イ．本人の希望と反応を確認し、状態や場面の变化に応じて方法を見直す。
- ウ．障害名ごとに一つの方法を決めて全員に適用する。
- エ．家族が選んだ方法は本人の希望より常に優先する。

答え・解説

正答：イ

ア：機器利用後も理解や意思を確認する必要がある。

イ：合理的な配慮や意思疎通方法は一律ではなく、個別状況に応じて調整する必要がある。

ウ：同じ障害でも必要な配慮は人によって異なる。

エ：本人を意思疎通の主体として尊重する必要がある。

総合解説：一度決めた方法を固定するのではなく、本人との対話を通して有効性を評価し、より利用しやすい方法へ更新していく。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0143

コミュニケーション技術 > 記録・報告・会議・ICT | 難易度：標準

介護記録の書き方として、最も適切なものはどれか。

ア．本人の発言を介護職の推測に置き換えて記録する。

イ．「今日は機嫌が悪くて困った」とだけ記録する。

ウ．「昼食を3割摂取し、『食欲がない』と話した」のように、観察事実と本人の発言を具体的に記録する。

エ．「いつも通り」とだけ記録し、観察内容は書かない。

答え・解説

正答：ウ

ア：本人の発言と介護職の解釈は区別する必要がある。

イ：評価が中心で、何が起きたか具体的に分からない。

ウ：記録では、観察した事実や本人の発言を具体的に残すと、他職員が状況を共有しやすい。

エ：必要な変化や根拠を共有できない。

総合解説：「わがまま」など評価的な表現より、誰が読んでも状況を再現しやすい具体的・客観的な情報を記録することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0144

コミュニケーション技術 > 記録・報告・会議・ICT | 難易度：基礎

利用者Uさんが突然胸の痛みを訴え、顔色が悪くなった。介護職の情報共有として、最も適切なものはどれか。

ア．勤務終了時の申し送りまで報告を待つ。

イ．自分の推測した病名だけを伝える。

ウ．他の利用者に相談して様子を見る。

エ．必要な安全対応を行いながら、症状の発生時刻や状態を速やかに看護職や上司等へ報告する。

答え・解説

正答：エ

ア：緊急性のある状態で報告を遅らせるのは不適切である。

イ：介護職は観察事実を具体的に伝えることが重要である。

ウ：必要な専門職・責任者へ報告するべきである。

エ：緊急性の高い変化は、通常の申し送りまで待たず、必要な相手へ速やかに共有する。

総合解説：報告では「いつ、何が、どのように変化したか」など判断に必要な事実を簡潔に伝えることが安全なチームケアにつながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0145

コミュニケーション技術 > 記録・報告・会議・ICT | 難易度：標準

介護職が「判断に迷う新しい状況」について上司に意見を求める行為として、最も適切なものはどれか。

- ア．相談である。
- イ．記録だけであり、口頭共有は不要である。
- ウ．単なる私的な雑談である。
- エ．本人に知らせず情報を隠すことである。

答え・解説

正答：ア

ア：相談は、判断や対応に迷う事項について助言や判断を求めるコミュニケーションである。

イ：状況によっては速やかな相談が必要である。

ウ：業務上の判断を求める行為は相談に当たる。

エ：相談は必要な関係者と情報を共有して支援判断を得る行為である。

総合解説：報告・連絡・相談はいずれも情報共有に重要であり、内容の性質や緊急性に応じて適切な方法を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0146

コミュニケーション技術 > 記録・報告・会議・ICT | 難易度：応用

利用者の支援方針を検討する会議の進め方として、最も適切なものはどれか。

- ア．議題を決めず、発言したい人だけが自由に話して終了する。
- イ．目的と議題を明確にし、必要な情報を共有したうえで意見を出し、決定事項と役割を確認する。
- ウ．反対意見は記録に残さず排除する。
- エ．決定事項は司会者だけが知っていればよい。

答え・解説

正答：イ

ア：目的や結論が不明確になりやすい。

イ：会議は情報共有や課題検討、意思決定を行う場であり、目的・議題・結論・担当を明確にすることが重要である。

ウ：必要な意見を検討し、合意形成することが重要である。

エ：実践するメンバーへの共有が必要である。

総合解説：会議後に「誰が何をするか」が共有されて初めて、検討結果を実践へつなげられる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0147

コミュニケーション技術 > 記録・報告・会議・ICT | 難易度：標準

介護記録をチームで共有する主な意義として、最も適切なものはどれか。

- ア．職員の記憶に頼るため記録はできるだけ減らす。
- イ．利用者を評価・批判する文章を残すことが目的である。
- ウ．利用者の状態や支援内容、反応を継続的に把握し、一貫した支援につなげる。
- エ．勤務した証明だけのために作成する。

答え・解説

正答：ウ

ア：記憶だけでは継続的で正確な情報共有が難しい。

イ：記録の目的は支援に必要な事実と経過の共有である。

ウ：記録は時間や担当者を超えて情報を共有し、支援の継続性を確保する手段である。

エ：支援の継続性や評価等にも重要な役割がある。

総合解説：記録は単なる事務作業ではなく、評価、支援計画の見直し、多職種連携にも活用される専門的情報である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0148

コミュニケーション技術 > 記録・報告・会議・ICT | 難易度：基礎

介護記録にICTを導入する考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．情報共有が便利なので全職員に無制限の閲覧権限を与える。
- イ．電子化すれば対面の相談や会議は一切不要になる。
- ウ．ICTを使えば入力内容の確認は不要になる。
- エ．転記の削減や迅速な情報共有に活用しつつ、入力内容の正確性やアクセス管理にも注意する。

答え・解説

正答：エ

ア：必要性に応じたアクセス管理が重要である。

イ：状況に応じて複数のコミュニケーション手段を使い分ける。

ウ：機器を使っても入力ミスは起こり得る。

エ：ICTは情報共有や業務効率化に有効だが、誤入力や情報管理の課題が自動的に解消するわけではない。

総合解説：ICTは目的ではなく手段であり、介護の質と安全を高めるために、運用ルール・教育・安全管理と組み合わせて活用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0149

コミュニケーション技術 > 記録・報告・会議・ICT | 難易度：標準

利用者の介護記録を共有する方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．事業所の定めた安全なシステムと権限の範囲で、業務上必要な職員が必要な情報を共有する。
- イ．職員なら業務に関係なく全利用者の記録を自由に閲覧する。
- ウ．個人情報保護のため、支援に必要な職員にも情報を一切共有しない。
- エ．便利なので個人のSNSグループに記録写真を送る。

答え・解説

正答：ア

ア：介護記録には個人情報が含まれ、安全管理と適切な利用範囲の管理が必要である。

イ：業務上の必要性に応じたアクセス管理が求められる。

ウ：適切な支援に必要な範囲での情報共有は必要である。

エ：事業所の管理外での個人情報共有は漏えいリスクが高く不適切である。

総合解説：共有の必要性和個人情報保護は対立概念ではなく、必要な支援者へ適切に共有しつつ、目的外利用や漏えいを防ぐ仕組みが必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04

0150

コミュニケーション技術 > 記録・報告・会議・ICT | 難易度：応用

会議で「乗車時は必ず歩行器を右側に置く」と支援方法を変更した。変更後の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．一度決定した支援方法は利用者の反応にかかわらず固定する。
- イ．決定内容を記録し関係職員へ共有し、実施状況と利用者の反応を確認して必要なら再検討する。
- ウ．変更理由は記録せず、口頭で伝えたら記録を削除する。
- エ．会議参加者だけが覚えていればよい。

答え・解説

正答：イ

ア：実施結果を評価し、必要に応じて見直す。

イ：会議で決めた内容は記録・共有・実践・評価までつなげる必要がある。

ウ：継続性と検証のため必要な情報を記録する。

エ：不参加者にも必要な情報を共有する必要がある。

総合解説：チームコミュニケーションは情報を伝えて終わりではなく、支援が実施され、その結果が次の判断へ戻る循環を作ることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-04